

師範學校編 萬國史畧

歐羅巴洲下

人民公移轉下

佛蘭西下

英吉利下

獨逸 奧地利 普魯士下

瑞西下

和蘭 比耳時下

雙馬 瑞典 挪威下

西班牙 葡萄牙下

以夫利下

土兒其下

魯西亞下

亞利加洲

發見殖民下

合衆國下

209.

Si 299.6



師範學校編輯

萬國史畧卷之二



明治七年二月 文部省刊行

212805

萬國史畧卷之二

歐羅巴洲下

人民ノ移轉

大移轉

紀元四百年代、羅馬帝國ノ衰頽セル頃ニ當リ、歐羅巴洲ニ、大動亂アリテ、全洲ノ居民、互ニ其住人ヲ驅逐シテ、他國ニ轉移ス、是ヲ歐羅巴洲民ノ大移轉ト名ツケ、現今各國人種ノ區別、略此時ニ定マル者トス、蓋シ是ヨリ先キ、亞細亞洲ノ内地ニ、匈奴ト名クル野民アリ、帳幕ヲ以テ家トシ、沙漠ノ中ニ、牛羊ヲ遊牧ス、固ヨリ住処ヲ定メザル民





師範學校編輯

萬國史畧卷之二

明治七年月 文部省刊行



212815

萬國史畧卷之二

歐羅巴洲下

人民ノ移轉

大移轉

紀元四百年代、羅馬帝國ノ衰頽セル頃ニ當リ、歐羅巴洲ニ、大動亂アリテ、全洲ノ居民、互ニ其住人ヲ驅逐シテ、他國ニ轉移ス、是ヲ歐羅巴洲民ノ大移轉ト名ツケ、現今各國人種ノ區別、略此時ニ定マル者ト云、蓋シ是ヨリ先キ、亞細亞洲ノ内地ニ、匈奴ト名クル野民アリ、帳幕ヲ以テ家トシ、沙漠ノ中ニ、牛羊ヲ遊牧ス、固ヨリ住処ヲ定メザル民





種ナレバ、常ニ水草ヲ逐ヒテ、轉居シ或ハ隣國ヲ  
 搜掠シ、久シク漢土ニモ寇セシトアリシガ、紀元  
 三百七十七年ノ頃、仁徳天皇ノ末終ニ大ニ破ラレ、顛轉シ  
 テ、西北ニ移リ、漸ク歐羅巴洲ノ東部ニ侵入シテ、  
 土人ヲ逐ヒ攘ヘリ、其頃、歐羅巴洲ノ土人、久ク各  
 地ニ部落ヲ爲セシ者、之ヲ防グテ能ハズ、遂ニ其  
 部衆ヲ率キ、更ニ隣境ニ侵入シテ、又其土人ヲ逐  
 ヒ攘ヘリ、此ノ如ク、互ニ相驅逐シテ、次第ニ隣國  
 ヨリ、隣國ヘ及ボシ、終ニ羅馬ノ封内ヘ侵入ス、西  
 羅馬ノ版圖ハ、全ク、此等ノ野民ノ爲ニ、瓦解セシ

ラル、其人種中、ゲルマン、ゴツツ、フランクス、アングル  
 ス、サクソン、スヴィンダルス、等ノ如キ、皆此時ニ在  
 テ、英、佛、獨逸、西班牙、以太利等ノ諸國ニ移リ住セ  
 リ、故ニ、今ノ西洋各國ハ、皆此居民ノ大移轉ニ因  
 リ、羅馬帝國ノ分裂セシ後、建國セル者トス、  
 佛蘭西

此國、歐羅巴ノ西ニ在リ、往古ノ土人ヲゴウルト  
 名ヅケ、羅馬ノ大將セサル、始テ之ヲ征服シ、後、數  
 百年ヲ歷テ、羅馬ノ勢衰ヘ、居民大移轉ノ時、アラ  
シクスト名ツクル人種此國內ニ移住シ、土人ヲ



征シ、羅馬ノ屯兵ヲ逐ヒ、遂ニ邦土ヲ紛煩セリ、其  
 酋長、ロウエーノ孫、ク、ロウニスナル者、紀元、五百年  
 ノ頃、武烈天全國ヲ平定シテ、王位ニ即キ、耶蘇教  
 ヲ信奉ス、是ヲ佛蘭西ノ始王トス、爾後、世々ノ國  
 王、多クハ、酒色ニ溺レテ、政事ヲ治メズ、内臣漸ク政  
 權ヲ專ニスルニ至リ、チャールス、マルトルナル者、  
 威力最至國ニ震ヒ、次テ、ペピン、ルブレフニ至リ、  
 終ニ王位ノ禪ヲ受ク、其子、シャイレマン、嗣テ位ニ  
 昇リ、英邁大度ニシテ、威力内外ニ振ヒ、精銳ノ兵  
 馬ヲ帥キテ、諸國ヲ征討シ、獨逸、以太利、瑞西、和蘭

佛國大帝

シマレマシ帝



加冠ニシテ、  
 カアラセテ、  
 位ニシカシムル  
 例式

比耳時ヨリ、西班牙ノ北部等  
 ヲ合セテ、盡ク之ヲ領地トシ  
 且羅馬法王ノ加冠ニ因テ、終  
 ニ帝位ニ昇レリ、是紀元、八百  
 年、桓武天皇延ニシテ、實ニ、羅  
 馬國以後、此ハ如キ大國ヲ爲  
 ス者アラズ、之ニ加フルニ、學  
 校ヲ起シ、法度ヲ定メ、殊ニ教化ヲ厚クセリ、其切  
 業ノ大ナルガ故ニ、更ニ大帝ト尊稱ス、其歿スル  
 ニ及ビ、太子ルイ、位ヲ嗣ギシガ、不肖ニシテ、大國



ヲ統御スルノ才ナク、遂ニ領地ヲ分ツテ、三子ヲ封ズ、即佛蘭西、以太利、獨逸ナリ、皆封建ノ制ヲ用

食ルモノ

此時佛國ニ王タル者ヲチャールス二世ト名ツク、然ルニ、獨逸、以太利トハ、元來兄弟ノ國タレ、彼此、互ニ不和ヲ生ジ、數年間、屢戰爭ヲ起セリ、且此頃ノルマント稱スル海賊、此國ニ來リ、寇セシガ、之ト戰ヒ、屢敗北シ、終ニ西岸ノ地ヲ割キ、之ヲ與ヘテ、和睦ヲ爲スニ至レリ、後世ノルマンチト稱スル地、是ナリ、此ノルマンハ、歐羅巴ノ北部、那

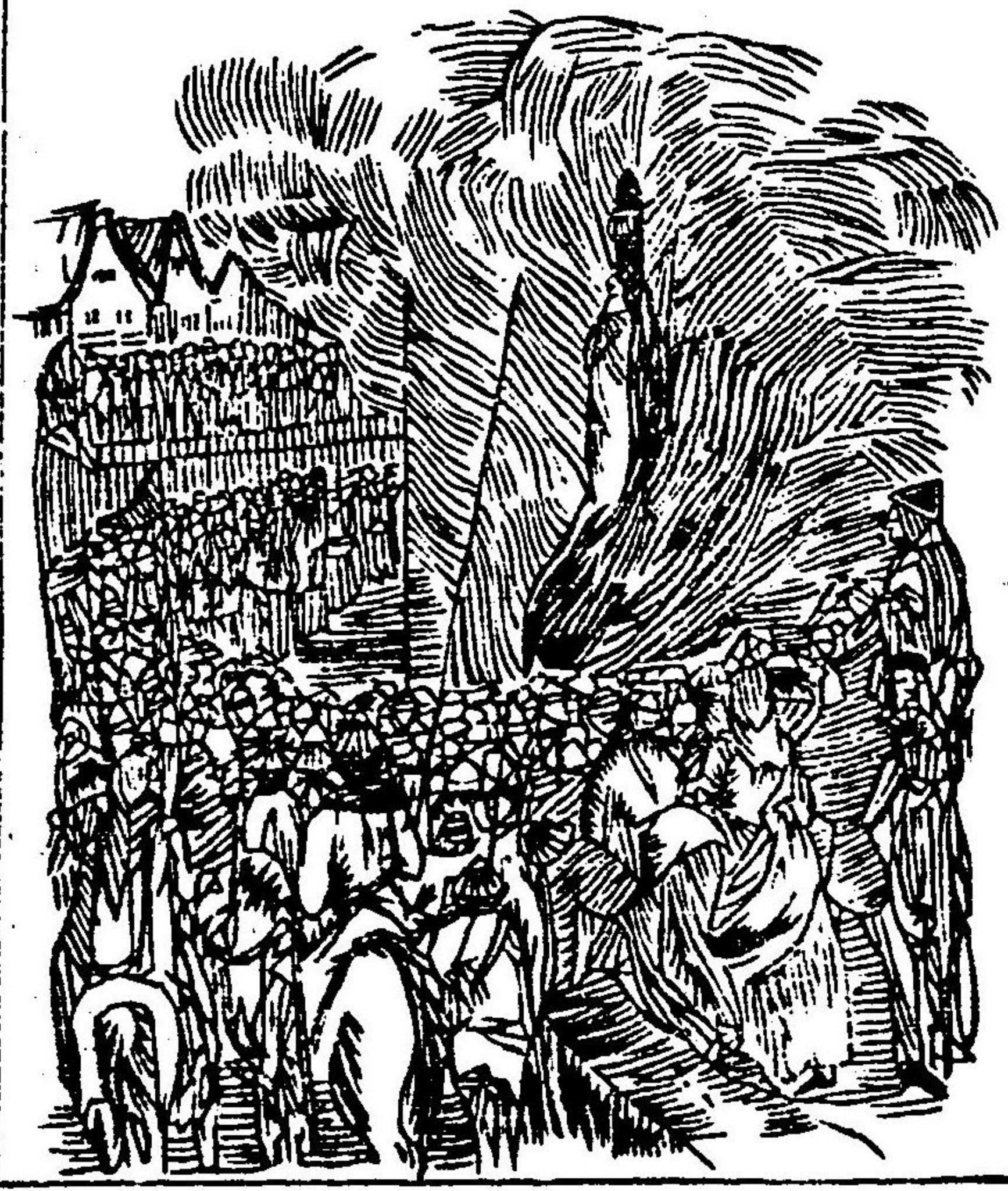
威ノ八民ニシテ、此頃、噠國人ト共ニ、海賊ヲ事シ、勢甚強猛ニシテ、諸國之ニ敵スルヲ能ハズ、英國ノ如キモ、亦噠國人ノ爲ニ、征擧セラレシトアリ、時ニ佛國ノ勢、次第ニ衰ヘ、國內ノ諸侯、皆政府ノ命ニ從ハズ、ヒューグ、カペット侯ナル者、終ニ王ニ逼リ、禪ヲ受ケテ、位ニ昇ル、是紀元、九百八十七年ニ在リ、爾後、國勢ヲ挽回シ、都ヲパリスニ定ム、後紀元、千三百二十八年ニ至リ、チャールス四世王ノ歿スルニ及ビ、近キ血統絶ユルニ因リ、ウァロイヌ侯ヲリッフ六世、其從弟タルヲ以テ、入ツテ位ヲ繼



女子義挙  
起ス

ゲリ然ルニ英國ノ王エドワード三世佛王ノ親  
滅タルガ故ニ、宜シク其國ニ王タルベシトノ論  
ヲ發シ、大軍ヲ舉ゲテ佛國ニ侵入ス、是ヨリ兩國  
九十餘年間ノ戦争ト爲レリ、此頃、英國ノ勢盛ニ  
シテ、佛軍之ニ敵シ難ク、多年ノ間、數度ノ戦争ニ  
敗北シ、領地次第ニ敵ニ棄ハレ、ジョン王ノ如キ、大  
ニ敗北シテ、遂ニ擒ニセラレ、國內頗ル混亂ヲ極  
ム、其後、數世ノ間、英國ト或ハ和シ、或ハ戦ヒ、國內  
ニモ亦騷亂屢起リテ、國力大ニ疲弊セリ、紀元、千  
四百二十二年、チャールス七世ニ至リ又大ニ英國

シク、國ノ存亡且タニ逼レリ、然ルニ、此時、ジャンガ



ノ兵ヲ被リ、數回敗軍シテ、全國大抵敵ニ没入シ  
國王ハ唯オルレアン城ヲ保ツト雖モ、英兵ノ圍嚴  
シク、國ノ存亡且タニ逼レリ、然ルニ、此時、ジャンガ

クト名ツクル一  
女子アリ民間ニ起  
テ、義兵ヲ舉ゲ、オル  
レアンノ圍ヲ解キ  
國王ノ難ヲ救ヒシ  
カバ、國內兵ヲ起シ、  
之ニ應スル者多ク

萬國史綱卷之二十一

五二六



皆決死シテ英兵ト戦ヒ、數度ノ勝利ヲ得テ漸ク  
 土地ヲ回復セシガ後、英人ジャンダークヲ擒ニ  
 シテ之ヲ焚殺セリ然レモ英軍終ニ利ナクシテ  
 國ニ退キ以後、兩國ノ戦争始メテ息ミ、漸ク平穩  
 ニ至レリ、  
 其後數世ノ間、地力ト戦争シ、又衆諸侯ノ地ヲ  
 合併シ、國力漸ク強盛ニ赴キ、政府ノ威令、國內ニ  
 行ハル、後、フランス一世ニ至リ、豪猛ニシテ兵  
 ヲ好ミ、紀元千五百十九年ノ頃ヨリ西班牙ト  
 不和ヲ生ジ、終ニ數度ノ劇戦アリ、此時、西班牙王

ハ獨逸帝ノ位ヲ兼ネ、チャールス五世ト號シ、兩國  
 ノ兵力ヲ統ベ、其勢甚ダ盛ニシテ佛軍屢敗北シ  
 フランシス一世、一度擒トナルニ至リシガ、國ニ  
 歸ルノ後、再ビ兵ヲ起シ、終身戰鬥ニ從事セリ、此  
 頃、獨逸ニ於テ、教法改革ノ争乱起リ、次デ佛國ニ  
 及ボシ、國內頗ル動搖セリ、此争乱ノ起原ハ、徒來  
 羅馬教、固陋ニシテ、弊害多キガ故ニ、ルゼルト云  
 ヘル、高僧出デ、新教ト名ヅクル一派ヲ立テ、人  
 民ノ之ニ歸依スル者多カリシガ、政府ヨリ、邪教  
 ナリトシテ、之ヲ禁ジ、或ハ其教徒ヲ刑ニ處セシ



ヨリ漸ク大争乱ヲ生ゼルナリ、佛國ニテモ、此教法ヲ嚴禁セシニ因テ、國內ノ動搖少カラス、其後國王ノ系統絶エ、ブルボン侯ヲ迎へ、位ニ即カシム、之ヲヘヌリ四世トス、潤達明敏ニシテ、善ク治政ヲ得タリ、ルイ十三世、幼ニシテ位ヲ嗣ギ、政ヲ執ルコト能ハズ、宰相リセリ、ルイ政務ヲ總理シ、賢明ニシテ、能ク國ヲ富マシ、民ヲ安ンゼリ、

紀元、千六百四十三年、明正十年皇寬ルイ十四世位ヲ継グ、時ニ佛國ノ勢、最モ隆盛ヲ極メ、國力富强ニシテ、文華甚々盛ナリ、殊ニ、國王ハ、華美ヲ好ミ、

イル四十七世



宮闕ヲ營ミ、パリス城ノ如キ、歐羅巴第一ノ都ト爲レリ、是ヨリ、國王、益奢侈ヲ極メ、漸ク傲慢ヲ生シ、對地ヲ廣メントシテ、頻ニ兵ヲ起シ、隣國ヲ併吞スルニ因リ、各國、皆其驕恣ナルヲ嫉ミ、獨逸、英吉利、和蘭、西班牙等カヲ合セ

テ、之ニ抗敵シ、數年間、戦争息マズ、之ガ爲メ、毎ニ巨萬ノ財ヲ費ヤシ、且苛政ヲ行ヒ、庶民ヲ瘡ケ、内ハ奢侈ヲ盡クシ、外ハ兵革ニ從事セシカバ、晩年ニ及ビ、國力大ニ疲弊シ、稍衰微ノ徵ヲ顯ハスニ



至レリ、紀元七百十五年、其歿スルノ後、ルイ十五  
世ヨリルイ十六世ノ代ニ至リ、次第ニ衰ヘ終ニ  
古來未曾有ノ大争亂ヲ起セリ、

ルイ十六世ハ、仁惠ノ君ナレ、此國古來ノ弊風

ニ因テ、貴族ト僧官ノミ、威權ヲ擅ニシ、門地アル

者ハ、坐食シテ奢ヲ極メ、常ニ賦税ヲ重クシ、庶民

ヲ虐ゲシカバ、國民皆政府ヲ怨ムト深ク、將ニ大

騷亂ヲ起サントスルノ兆、已ニ顯ハレタリ、是ニ

於テ紀元千七百八十九年、大集會ヲ開キ、國內ノ

貴族、及ビ國民ノ名代人ヲ、諸州ヨリ呼出シ、集議

シテ、此流弊ヲ改メントセシニ、其說遂ニ一被セ

ズ、其間種々ノ徒黨起リ、互ニ相争フテ、動搖已マ

ズ、紀元千七百九十一年光格天皇終ニ大騷亂ト

爲リ、ロベスピエールナル者、過激黨ノ巨魁ニシ

テ、最モ殘忍暴戾ヲ極メ、國王及ヒ王妃ヲ獄ニ繫

ギテ、之ヲ弑シ、貴族ハ捕ヘテ、盡ク首ヲ刎ネ、凡ソ

平民ヲ皆メシ者ハ、殺シ盡クシテ、殘スナシ、此

激徒、終ニ政事ノ全權ヲ握リ、國體ヲ變ジテ、合衆

政治ト爲スト、雖、徒黨幾個ニモ分レ、異黨ノ者

互ニ相殺シ、ロベスピエールノ黨ノ如キモ、亦盡



シ、城ハ、忽チ積屍ノ山ヲ爲セ、内乱終ニ止ムナ  
シ、  
時ニ佛國ノ大將、ナポレオンナル者、豪邁雄武ニ



シテ、不世出ノ英畧アリ  
此頃、兵ニ將トシテ、以太  
利ニ入り、屢壞地利ノ兵  
ヲ破リ、又エジプトヲ征  
伐セシガ、本國ノ動搖尙  
未ダ止マザルヲ聞キ、陰

ニ大志ヲ抱キテ國ニ歸リ、急ニ合衆政府ノ徒黨  
ヲ驅逐シ、自ラ大統領トナリテ、政事ヲ總理シ、獨  
リ全國ノ威權ヲ掌握ス、此時、歐羅巴ノ各國、合併  
シテ、兵ヲ起シ、佛國ニ攻ハレ、ナポレオン、盡ク  
之ヲ伐チ破テ、大ニ人望ヲ得タリ、終ニ千八百四  
年光緒大皇  
文化元年帝位ニ即キ、ナポレオン一世ト號ス、是ヨ  
リ數年ノ間、獨逸、魯西亞、瑞典、西班牙等ノ諸國、力  
ヲ合セテ屢佛軍ニ抗敵スト雖、ナポレオンノ  
兵ヲ用キル、鬼神ノ出波スルガ如ク、向フ所盡  
ク之ヲ破リ、諸國ヲ平定シテ、或ハ之ヲ屬地トシ



或ハ親戚功臣ヲ分封シテ、其國王ト爲シ、終ニ歐  
 羅巴ノ大畧皆其屬國タルガ如ク、其命ヲ奉ゼザ  
 ル者無キニ至レリ、此時英國ハ、島國ニシテ、海軍  
 ヲ以テ堅守スルガ故ニ、佛國ノ命ニ從ハズ、佛兵  
 モ亦之ヲ攻ムルヲ能ハズ、因テ各國ニ令シテ一  
 切英國ノ貿易ヲ禁シ、英國ヲシテ、自ラ疲弊セシ  
 メント欲ス、然ルニ、魯西亞ハ、此令ヲ奉ゼザルヲ  
 以テ、紀元千八百十二年文化九年、ナポレオンハ魯西  
 亞ヲ伐タント欲シ、遂ニ四十六萬ノ大軍ヲ起シ  
 テ、東北ニ向ヒ、大戰數回ニシテ、魯國ノ都モスコ

ト府ニ攻入りシニ、魯人ハ、盡ク人家ヲ燒拂ヒテ  
 引退キタレバ、佛軍、此北地ノ寒氣ヲ凌グヲ能ハ  
 ズナポレオンモ、巴ムヲ得ズ、引退カントセシ  
 ニ、大雪既ニ路ヲ塞ギ、魯兵、四方コリ襲撃セシカ  
 バ、佛軍大敗シテ、全軍皆路止ニ死亡シ、ナポレオ  
 ンモ纔ニ逃レテ、パリスニ歸ルヲ得タリ、然レ  
 尺、尋テ忽チ十五萬ノ兵ヲ擧ゲ、再び獨逸ニ進發ス、  
 是ニ於テ、歐羅巴各國皆兵ヲ興シテ、之ヲ逆ヘ、大  
 ニライブシツクニ於テ會戰シ、佛軍全ク敗走シ、  
 各國ノ兵、追フテパリスニ入り、終ニナポレオン



ノ位ヲ黜ケ、地中海中ノエルハ島ニ流シ、前王ノ  
第ヲ立テ、是ヲルイ十八世トス、因テ、紀元千八百  
十四年、諸國ノ使節、埃地利ノ都ニ會合シ、各國ノ

ナポレオン再ビ佛國ニ上陸セ



疆界等ヲ議定スルニ當リ、翌  
春、ナポレオンハ、潛ニエルバ  
島ヲ遁レ出テ、佛國ニ上陸セ  
シカバ、奮臣殘滓、歡呼シテ之  
ヲ迎ヘ、遂ニ國王ヲ逐斥シ、再  
ビ帝位ニ昇ラシム、是ニ於テ、  
大軍ヲ帥キテ、比耳時ニ進發

ス、各國大ニ愕キ、再ビ兵力ヲ合併シテ、ブーナ  
ローニ會シ、大戰シテ、終ニ佛軍ヲ破リ、再ビナポ  
レオンヲ黜ケ、遠ク亞非利加洲ノセントヘレナ  
島ニ流シテ、ルイ十八世ヲ位ニ復セリ、  
其後、國內稍平穩ニ属スト雖、国民徒黨シテ、相  
競フノ勢止マズ、チャールス十世、位ヲ繼ギ、威權ヲ  
以テ、擅ニ政令ヲ行ヒシヨリ、紀元千八百三十年、  
内乱復タ起リ、一度政府ヲ覆スト雖、再、オルレ  
アン侯ヲ立テ、王トシ、之ヲルイ、ヒリップト名ヅク  
然ルニ、千八百四十八年ニ至リ、又動乱ヲ生ジ、國



王ヲ廢シテ合衆國トシ、ナポレオン一世ノ甥ルイ、  
ナポレオンナル者、大統領ニ任ゼシガ、終ニ帝ト  
稱シ、ナポレオン三世ト號ス、爾後、國內稍平定ニ  
歸シ、國力富強ニシテ、文物隆興シ、加フルニ、ナポ

ナポレオン三世



レオン三世、英オヲ以テ、政權  
ヲ掌握シ、大ニ海陸軍ヲ起シ、  
宇内ニ雄視ス、千八百五十四  
年、英國ト合シテ、魯國ヲ伐テ、  
セバストポルノ砲臺ヲ陥シ  
イレ、大ニ國威ヲ輝カシ、尋デ

千八百五十九年、サルヂニアヲ助ケテ、埃地利ト  
戦ヒ、大ニ之ニ勝ツテ、殆ンド、各國ヲ躡蹙スルノ  
勢アリ、然ルニ千八百七十年、普魯士國ノ王族又  
西班牙國王ト爲サントスルノ論ヨリ、普國ト和  
親破レ、ナポレオン、自ラ四十万ノ兵ニ將トシテ、  
獨逸ノ國境ニ進發シ、普王モ、亦自ラ大軍ヲ帥キ  
テ、之ニ會シ、ライン河ノ近傍ニ於テ、大ニ戦争ア  
リシガ、佛軍大ニ敗北シ、佛帝、セダンニ退キ、籠城  
スト雖、防ク一能ハズ、自城ヲ開キテ、普軍ニ降  
ル、是ニ因テ、國內又大ニ騷擾シ、再ビ合衆國ト爲



リ、更ニ普軍ヲ防ギシガ、終ニ支フルト能ハス、巨  
万ノ償金ヲ出シ、土地ヲ割キテ、之ニ與ヘ、翌春ニ  
至リ、兩國漸ク和睦ヲ爲シ、爾來尚、合衆共和ノ政  
ヲ以テ、全國ヲ統治セリ、

### 英吉利

此國ハ、歐羅巴ノ西北ナル島國ナリ、上古ノ土人  
ヲ、ブリトント名ヅク、故ニ此國ヲ指シテ大ブレ  
テーントモ云フ、羅馬ノ大將セサル、始メテ此國  
ヲ征伐シ、後、羅馬ノ屬國ト爲レリ、數百年ヲ歷テ  
羅馬ノ勢衰ヘ、歐羅巴洲民大移轉ノ時ヨリ、獨逸

地方ノアングロ人サクソン人等、此國ニ移リ、土  
人ヲ平ゲ、土地ヲ畧取シ、次第ニ分レテ、數多ノ諸  
侯ト爲リ、其中七大諸侯アリテ、數百年間、互ニ戰  
争セシガ、紀元八百二十七年淳和天皇ニ至リ、七  
諸侯中、ウエッセックス侯始メテ國內ヲ一統ス、然ル  
ニ、其後、噠馬人來寇シ、之ヲ防グト能ハズ、漸ク土  
地ヲ奪ハレ、之ニ屈伏シ、噠國王カニトノ時ノ  
如キ、全ク其領地ニ歸セリ、

其後、故ノ國王ノ子エドワード、王位ニ昇リシガ、  
連國人、及ビ從來ノ諸侯、土地ヲ分領シ、王ノ威冷



全ク國內ニ行ハレズ、紀元千六十六年、其歿スルニ及ビ、ケント侯ハロルフ、自立シテ王タラント欲セシニ、佛國ノ西北ナルノルマンチーヲ領セシウイレルム公、大軍ヲ帥キテ、此國ニ攻入リ、遂ニ全國ヲ平ゲテ、王位ニ昇ル、之ヲノルマンノ一統ト稱ス、夫ヨリ數世ヲ經テ、ヘヌリ二世ノ如キ、勇武ニシテ、善ク兵ヲ用キ、ノルマンチーヨリ、次第ニ版圖ヲ擴メ、佛國內ヲ侵畧シ、又アイルランドヲ平定ス、其後國政漸ク衰へ、内亂止マズ、終ニ又佛國地方ノ屬地ヲ失ヘリ、紀元千二百十五年

自主ノ基本

英王マグナ・カルタの署名者



天皇建保三年チヨーン王ノ時、國人舉テ國法ヲ改革シ、マグナ・カルタト稱スル法度ヲ立テ、衆議ヲ盡クシテ、政ヲ行ヒ、敢テ國王ヲシテ威權ヲ擅ニスルコトヲ得ザラシム、是レ今ノ議事院ノ起原ニシテ、國民自主ノ權ノ基トナリヌ

其後、エドワード一世ノ時、ウイールスヲ征伏シ、屢スコトランドト戦争セリ、エドワード二世、復タスコトランドヲ討テ敗軍シ、且不徳ニシテ人望ヲ



佛國王位ノ

失ヒ、終ニ位ヲ黜ケラル、  
 エドワルト三世ノ時、佛國ノ王チャールス四世歿  
 シテ、太子無シ、因テ、英王ハ其近親ノ縁アルヲ以  
 テ、佛國ノ王位ニ昇ルベキノ論ヲ立テ、終ニ自ラ  
 大軍ヲ將テ、佛國ニ攻メ入り、大ニ勝テ、殆ド全  
 國ヲ征服セントスルノ勢アリ、此戦争、數世相繼  
 ギ、前後九十餘年ノ間、屢佛國ノ兵ヲ破リ、或ハ佛  
 王ヲ擒ニセシトアリ、ヘヌリ六世ニ至リ、内乱ニ  
 因テ、終ニ兵ヲ班ヘシ、是ニ至テ、盡ク佛國ノ領地  
 ノ失ヘリ、此時、政令衰ヘ、ヨリク俟其前王ノ血統

タルヲ以テ、國王タランコヲ唱ヘ、兵ヲ起シテ、國  
 王ニ抗シ、其子終ニ王位ニ昇リ、エドワルト四世  
 ト號ス、是ニ於テ、國內ニ二黨ニ分裂シ、二十餘年間  
 ノ大乱ト爲リ、常ニ戦争止マザリシガヘヌリ七  
 世起テ、此國乱ヲ平ゲ、始メテ平和ニ至ル、是紀元  
 千四百八十五年ニ在リ、然レ、后其後又時々内乱  
 ナキニアラズ、  
 千五百五十八年、正親町天皇 永祿元年女王エリサベス位  
 ニ即ク、賢明ニシテ、能ク政ヲ修メ、國內平穩ニシ  
 テ、航海貿易ノ法、盛ニ開ケ、又西班牙國ト戦争起



リシ時、敵百五十艘ノ軍艦ヲ以テ、攻來リシガ、盡ク之ヲ殲滅スルニ至レリ、此頃ヨリ、英國ノ海軍次第ニ盛大ニ赴キ、海外ノ属地、又頗ル増加セリ、女王歿スルニ及ビ、其血縁タルヲ以テ、スコットランドノ王ヲ迎ヘテ、王トシ、之ヲゼームス一世トス、是ニ於テ、兩國始メテ合併シテ、一國ト爲ル、繼テチャールス一世立テ、恣ニ政事ヲ行ヒシカバ、國人皆之ヲ怨ミ、忽チ内乱ヲ起

スベカリエ



シ、コロムセルナル者、終ニ國王ヲ弑シ、國體ヲ變ジテ、共和政治トシ、自ラ大統領トナリシガ、久シカラズシテ、前王ノ子チャールス二世、國ヲ復シテ再ビ王國トシ、弟ゼームス二世、繼テ王タルニ及ビ、復タ内亂起リ、國王ヲ逐ヒ黜ク、此頃和蘭ノ大統領キルレム三世、賢ニシテ、且英王ノ親屬タルニ因リ、迎ヘ立テ王トス、

キルレム三世、善ク民ヲ愛シ、治安ヲ圖リ、國內平穩ニシテ、日ニ富盛ニ赴キ、又屢佛國ノルイ十四世ト戦争アリ、キルレム歿スルニ及ビ、女王アン



之、位ニ昇リ、子ナクシテ歿ス、是ニ於テ、其血統ヲ  
 選ビ、獨逸國ノ内、ハノーブルノ王、ゼオルキ三世  
 ヲ迎ヘテ、王トス、即チ今代女王ノ家系ナリ、其後西  
 班牙、佛蘭西等ト戦争アリシガ、國內ハ平穩ニシ  
 テ、貿易盛大ニ開ケ、海外ノ領地モ、亦隨テ廣大ニ  
 至レリ、然ルニ、ゼオルキノ政、不正ナルヲアリシ  
 ヨリ、千七百七十六年後桃國天皇亞米利加洲ノ  
 屬地、叛テ兵ヲ舉ゲ、合衆國ト稱シ、獨立セントス  
 英王ノ征シテ、七年間、戦争ニ及ビシガ、之ヲ平  
 グルヲ能ハズ、終ニ其獨立ヲ許シテ、和議ヲ講ズ、

亞米利加洲ノ獨立

尋デ佛國ノ大騷乱起リ、ナポレオン一世ノ、四方  
 ヲ攻伐スルニ至リ、此國ハ海峽ヲ隔ルガ故ニ、佛  
 軍遂ニ攻來ルヲ得ズ、然レモ、ナポレオンハ各  
 國ニ令シテ、一切英國トノ貿易ヲ禁ジ、之ヲ疲弊  
 セシメンコトヲ謀レリ、後英國ノ大將エルリンズ



トン、兵ヲ率キテ、西班牙ニカヲ  
 合セ、佛軍ト戦テ、屢之ヲ破リ、其  
 國ニ侵ハセリ、後又、ナポレオン  
 ノエルバ島ヲ遁レ、再ビ兵ヲ舉  
 グルニ當リ、ヲートルローノ大



攻清國  
 林則徐為兩廣  
 總督命英商  
 德忌利士林之  
 英人羅兵艦運  
 請復至市林則徐  
 因與不許英人  
 侵廣東及香港

戰ニ、エルリントン、諸國ノ兵ヲ指揮シテ、之ヲ  
 破リ、終ニナポレオンノ大乱ヲ平治ヒリ、其後、國  
 内無事ニシテ、航海貿易日ニ繁盛ヲ極メ、相繼テ、  
 今代ノ女王ビクトリア、千八百三十九年仁孝元  
皇天保  
 年位ニ即キ、鴉片ノ事ニ因テ、清國ト戦争アリ、三  
 年ノ後、香港ノ地ヲ得テ、和議ニ及ベリ、千八百五  
 十四年ヨリ、佛國ト合シテ、魯國ヲ攻メ、其砲臺セ  
 バストホルヲ陥シイレ、戦争止ム、千八百六十年、  
 再ビ清國ト戦ヲ起シ、北京ヲ陥シイレ又償金ヲ  
 取テ、和議ヲ爲セリ、現今、國內平靜ニシテ、富強ノ

勢愈盛ナリ、

獨逸 壤地利 普魯士

獨逸ノ一名ヲ日耳曼ト云フ、歐羅巴ノ中央ニア  
 リ、羅馬ノ盛ナル頃、此地方ハ野民ノ割據スル所  
 ニシテ、求ダ其内地ヲ征服スルト能ハザリシガ  
 佛國シ、レマン帝ノ時ニ至リ、始テ其政令ニ從  
 フ、後帝ノ封土分裂スルニ及ビ、獨逸ハ、ルイ、ドイ  
 ツルナル者、國王トナリ、域内皆封建ノ制ヲ用テ、  
 大小許多ノ諸侯ヲシテ、之ヲ分領セシム、後、  
 ルス王ノ時、暫ク佛國ニ合スト雖モ國王不徳ニ



シテ人望ヲ失ヒ終ニ位ヲ黜ケラル、

紀元八百八十八年和字多帝仁キヤールス王位ヲ退

クノ後、獨逸王ノ位ニ昇ル者ハ、總テ一定ノ係

統ヲ以テセズ、國內衆諸侯ノ選舉ニ係リ、其權甚

ダ重シ、後世ニ至テハ、大諸侯七人ニテ、國王ヲ選

舉スルヲト定マレリ、ヘヌリ王ノ時、善ク國ヲ治

メ、ホンガリヨリ、勿境ヲ侵ス者ヲ討破リ、大ニ

武威ヲ輝セリ、其子オソ一世、繼テ立ツ、英邁ニシ

テオカアリ、終ニ以太利ノ國乱ヲ平ゲ、其王位ヲ

兼統シ、紀元九百六十二年村上天皇羅馬法王ノ

加冠ニ因テ、帝位ニ昇ル、是ヲ獨逸帝ノ始トス、後

コンラッド三世ノ時ニ至リ、國內大ニ乱レ、數百年

間、戰爭絶エズ、政令大ニ衰ヘ、大小ノ諸侯皆獨立

國ノ如ク、各隨意ノ政ヲ行ヒ、更ニ國帝ノ命ヲ奉

ガズ、國帝ト諸侯ノ間ニ、屢戰爭起リ、又羅馬法王

ト相和セズシテ、英世ノ混亂、絶ユルナシ、後十

字軍ノ起ルニ及ビ、國內ノ諸侯、之ニ赴ク者多ク、

フレデリック一世ノ如キ、自ラ兵ヲ帥キテ、小亞細

亞ヲ征シ、水ニ溺レテ死セリ、其後コンラッド四世

ノ歿スル後、國內復大ニ擾亂シ、國帝ヲ立テザル

十字軍



一、殆ト二十年ニ及ベリ、  
 紀元千二百七十三年、ハブスボルグ侯ルドルフ  
 一世ヲ立テ、帝位ニ即カシム、是今ノ奧地利ノ始  
 祖ナリ、其後、又數代ノ間、内乱屢起ル、次デリクセ  
 ンボルグ侯ノ系統、帝位ニ在ル、數世ナリシガ、  
 千四百三十八年ヨリ又ハブスボルグ侯アルベ  
 ルトニ位ヲ傳フ、次デ千四百九十五年、マキシミ  
 リヤン一世、帝位ニ即キ、衰勢ヲ挽回シテ、積年ノ  
 騷乱ヲ平ケ、威令漸ク國中ニ行ハレ、諸侯ヲ諭同  
 シテ、國法ヲ改革シ、國內治安ト稱セリ、此頃ヨリ

獨逸帝ノ位ハ、奧地利ノ家系ニテ、繼續スベキ事  
 ト定マリ、且ボヘミヤ、ホンガリーノ二國又奧地  
利ノ屬地ニ歸セシカバ、千五百年代ヨリ、其勢最  
 盛ニシテ、歐羅巴中ノ一大國ト爲レリ、且マキシ  
 ミリヤン一世ノ孫チャールス五世、其血統ヲ以テ、



世五スル一

兼テ西班牙ノ王位ニ昇リ  
 シガ故ニ、兩國一帝ノ統轄  
 ニ屬シ、其領地ハ和蘭比耳  
 時ヨリ、以太利ニ跨リ、海外  
 ノ屬國ハ、殊ニ南北亞米利



加ノ地ニ多ク、實ニ當時無双ノ大國ニシテ、日輪嘗テ其領内ニ設スル一無シト稱セリ、然レモ佛王フランシス一世之ニ敵シテ、屢戰ヲ起シ、且土兒其ノ勢甚ダ猛烈ニシテ、東亞ヲ攻零シ、頻ニ國內ニ侵ハス、其間教法改革ノ争乱、國中ニ起リ、嚴ニ之ヲ禁スト雖モ人民遂ニ從ハズ、千五百三十一年、新教ニ歸依スル諸侯、カヲ合セテ、之ヲ住張シ、全國大ニ動搖シ、剩ヘ、外國ヨリモ此黨ヲ助ケテ、國帝ニ抵抗セシメシカバ、已ムトヲ得ズ、和議ヲ講ジテ、新教ノ禁ヲ弛メ、稍平穩ニ復セリ、

紀元千五百五十六年、チャールス帝、自ヲ位ヲ退キ、其子フィリップ二世ニ、西班牙ノ王位ヲ譲リ、其弟ヘルチナント一世ヲ以テ、獨逸帝ノ位ヲ嗣ガシム、是ニ於テ、兩國再ビ分レ、次デヘルチナント二世ニ至リ、再ビ新教ノ黨ヲ疎縛セシヨリ、更ニ復内乱ヲ發シ、千六百十八年ヨリ、國中三十年間ノ大争乱トナリ、其間人命ヲ損亡セル一、其幾數萬ナリ、ヲ知ラズ、殊ニ英佛瑞典和蘭ノ諸國、兵ヲ出シテ、新教ノ黨ヲ助ケシカバ、千六百四十八年終ニエストハリアニ於テ、大集會ヲ爲シ、各國和議



ヲ結ビ、新教舊教并ニ行ハレテ、相侵サ、ル<sub>1</sub>ト  
 爲レリ、次デレオポルド帝ノ時、ホンガリーノ人  
 民、乱ヲ作シ、土兒其ノ大軍、此<sub>2</sub>處ニ集シテ、國都<sub>3</sub>中  
 ー<sub>4</sub>ンナヲ攻田<sub>5</sub>△ニ至リシガ、獨逸ノ兵擊<sub>6</sub>テ之ヲ  
 退ケ、又ホンガリーヲ平定スル<sub>7</sub>ト得タリ、其後、  
 チャールス六世ノ歿スルニ及ビ、太子無ク、唯マリ  
 ヤ、デレサト云ヘル一女アリシガ、女帝位ヲ繼グ  
 ノ舊例ナシトテ、大ニ争乱起レリ、然レモ、終ニ女  
 帝立テ、和議ヲ講ゼリ、且、ロルレイ<sub>8</sub>ン侯<sub>9</sub>ヲランシ  
 ス<sub>10</sub>一世既ニ女帝ト婚スル<sub>11</sub>ヲ以テ、兩家合併シテ、

フランシス一世ニ位ヲ傳フ、  
 普魯士國ハ、元來獨逸中ノ一諸侯ニシテ、フラン  
 デンビルグヲ領セシカ、フレデリックキルムノ  
 世、教法改革ノ贖<sub>12</sub>乱ニ因テ、更ニ領地ヲ増シ、始メ  
 テ獨逸中著名ノ一國ト爲レリ、且フレデリックキ  
 ルムハ、勇猛果斷ニシテ、善ク國ヲ治メ、富強ノ  
 基ヲ開キシカバ、其子フレデリック一世ニ至リ、千  
 七百一年、東山天區元終ニ王國ト爲レリ、嗣<sub>13</sub>ア  
 レデリック二世、特ニ智勇兼備ノ<sub>14</sub>傑ニシテ、各國  
 ト戦ヒ、屢勝利ヲ得テ、更ニ境土ヲ擴メ、緘<sub>15</sub>滅<sub>16</sub>ヲ一



世ニキリッアレフ



世ニ輝カシ、又文化ヲ勸メ、法度ヲ改革シ、歐羅巴  
 中ノ強國ト稱セラル、故ニ國民之ヲ大王ト尊稱  
 ス、其初メ、埃國ノ女帝、マリヤ、アレサ、位ニ即クニ  
 及ビ、フレデリッキ二世、兵ヲ起シテ、埃地利ヲ撃テ、  
 シレシ、イヲ攻取テ、之ヲ領セリ、次テ、各國普魯士  
 ノ目ニ富盛ニ赴クヲ嫉ミ、  
魯西亞、佛蘭西、瑞典、及ビ獨  
 逸中ノ諸國一致シテ、共ニ  
埃地利ニカヲ合セ、普國ヲ  
 亡ボサントセシニ、フレデ

リッキ一世之ト抗敵シ、千七百五十七年、執國天皇寶曆七年  
 ヨリ、七年間ノ大戦争ニ及ビ、常ニ數倍ノ大敵ニ  
 當リ、屢苦戦スト雖、少シモ弱セズ、終ニ沢村ノ  
 領地ヲモ縮ムルト無クシテ、和議ヲ講スルニ至  
 ル、是ヨリ、普王ノ漢名歐洲ニ轟ケリ、  
 其後、千七百年代ノ終ニ至ルマデ、國內平穩ニシ  
 テ、著ルキ沼津アヲズ、千七百九十五年、埃ノ兩  
 國、魯西亞ト共ニ、ポーランドヲ滅シ、之ヲ三分シ  
 テ、各疆土ヲ増セリ、  
佛國大騷乱ノ時ハ、埃地利ノフランシス二世、獨



逸帝ノ位ニ在テ、屢兵ヲ出シテ、佛國ト戰爭ニ及  
ビシガ、毎ニナポレオンノ爲メニ討破ラレ、前後  
兩度、國都ニ攻入ラレ、之ヲ防グコト能ハズ、終ニ地  
ヲ割キ、償金ヲ出シテ、和議ヲ講シ、且佛帝ノ意ニ  
循ヒテ、獨逸帝ノ號ヲ去レリ、故ニ爾後、埃地利帝  
ト稱スト、雖<sup>モ</sup>、獨逸全國ハ、同盟國ト稱シテ、別ニ  
皇帝ヲ立シルコトナシ、

普魯士國モ、亦屢ナポレオント戦ヒシガ、千八百  
七年、大ニ敗ラレ、封土ノ過半ヲ失ヒ、漸ク和睦ニ  
到リ、其後、ナポレオンノ魯國ニ攻入り、大敗ス

ルニ及ビ、獨逸ノ諸國、皆兵ヲ舉ゲテ、佛國ニ向フ、  
此時、普王フレデリック、キルレム三世、他國ニ先ダ  
チテ、兵ヲ起シ、埃地利魯西亞等ト共ニ、ライプシ  
クニ於テ、大ニナポレオント戦ヒ、之ヲ破テ、佛國  
ニ侵ハシ、ナポレオンノ位ヲ黜ケ、因テ、埃地利ノ  
都<sup>ニ</sup>、ンナニ於テ、大集會ヲ爲シ、各國ノ疆界ヲ  
定メ、埃普兩國モ亦其故地ヲ復スルコトヲ得タリ、  
又、獨逸同盟ノ諸邦ハ、皆互ニ獨立スト、雖<sup>モ</sup>、一致  
シテ、政事ヲ行フベキ約ナルガ故ニ、各邦ノ使節ヲ  
毎歲フランクノアルト府ニ集會シ、埃地利ノ使節



ヲ議長トシテ、國事ヲ決セリ、

千八百六十年、埃地利ト以太利ノ間ニ、戦争起リ  
佛帝ナポレオン三世、以太利ニカヲ合セ、大戦争  
三度アリシガ、終ニ埃國ノ兵破レ、ロンバルヂー  
ヲ割キ、以太利ニ歸シテ、和議ニ及ベリ、  
千八百六十六年、慶應埃普兩國ノ間ニ、不和ヲ生  
ジ、終ニ獨逸全國ノ争乱ト爲リ、次デキエーグ、グ  
ラツノ大戦争アリ、普軍大ニ埃軍ヲ破リ、和議ヲ  
講ズルニ及ンデ、埃國ハ獨逸同盟中ヲ存ケラレ、  
ハノーブル、ヘッセカッセル、ナッサウ等ノ數邦亡ビテ

普王ルムレム クリマスビ



普國ノ地ニ入り、其餘ノ各  
邦ハ、南北二部ニ分レ、北部  
ハ、皆普國ノ管轄ニ歸ス、故  
ニ普國ノ勢、愈盛大ニ赴ケ  
リ、

千八百七十年、明治西班牙  
國ノ王位相續ノ論ヨリシ  
テ、普國佛國ト戦争起リ、普  
王ルムレム一世、宰相ビス  
マークト共ニ、大軍ヲ帥キ



テ佛國ニ攻入り、ナポレオン三世ヲセダンニ擒  
 ニシ、パリスノ都ヲ攻囲ミ、終ニ大勝利ヲ得テ、ア  
 ルサス、ロレーンノ二州ヲ取テ、和議ヲ講ゼリ、是  
 ヨリ、普王兼テ獨逸皇帝ノ位ニ昇リ、南北獨逸ヲ  
 合シテ全國ヲ統轄シ、其國勢實ニ宇内ニ雄視セ  
 リ、  
 壤地利ノ今帝ハ、フランシス、ジョーゼフ一世ト名  
 ヅケ、國勢ハ、昔ノ如ク盛大ナラズ、

瑞西

瑞西國ハ獨逸ノ西南ニアル山國ナリ、佛帝シヤ

レマンノ時、其版圖ニ属セシガ、後獨逸ニ歸シ、獨  
 逸帝ヨリ、鎮將ヲ置テ、之ヲ管轄セリ、彼ノ壤地利  
 ノ祖ハプロスホルグ侯ルドルヲハ、元來、此國ノ貴  
 族ナリシガ、千二百七十三年、獨逸帝ノ位ニ昇レ  
 ルヲ以テ爾來、此國大抵獨逸國ニ属セリ、後、アルヘ  
 ルト一世ノ時、專テ威權ヲ以テ、國民ヲ制御セン  
 トシ、ゲスレル等ノ如キ、苛酷ナル鎮將ヲ遣リ、賦  
 稅ヲ重クシ、虐政ヲ施セシヲ以テ、國內ノ三州、相  
 結ンデ義兵ヲ起シ、キルレム、テルナル者、鎮將ヲ  
 殺シ、紀元千三百三年、後ニ條帝ヨリ、遂ニ戰端ヲ



開ケリ、是ニ於テ、**埃國**ヨリ、此乱ヲ鎮壓セントシ  
テ、兵ヲ出セシガ、後、大戦争アリテ、**瑞西**ノ兵大ニ  
之ヲ破リ、**延傍**ノ州郡、同盟ニ加ハル者、次第ニ多  
ク、其勢頗盛ナリ、其後、又屢、**埃國**ノ兵ヲ被ブルト  
雖、**氏**、**山地**ノ操練ニ熟シタル精兵ヲ以テ、**嶮阻**ニ  
據リ、烈シク之ヲ防禦シ、少シクモ屈セズ、其後、**埃**  
國ニ叛キテ、同盟ニ加ハル者、多ク、千四百七十五  
年、**ブルゴン**シ侯ト戦テ、大勝利ヲ得タリ、千、四、百  
九十九年、**獨逸**帝マキシミアンノ時、一舉シテ、  
此國ノ乱ヲ平ゲント欲シ、大軍ヲ以テ、攻來ルト

雖、**凡**、國民一致シテ激戦シ、**埃**軍ヲ破ル、前後六  
戦争ニ及ビシカバ、**近隣**ノ州郡、同盟ニ入ル者益  
多ク、其勢愈強盛ニ及ベリ、因テ**埃**國ヨリ和議ヲ  
約シ、終ニ其獨立ヲ許スニ至レリ、  
其後、**教法**改革ノ争乱ノ時、此國モ亦頗ル動揺ス、  
後、又**佛**帝ナポレオン一世ノ時ニ至リ、一旦其版  
圖ニ歸スト、雖、**凡**、**埃**國ノ大會議ニ於テ、再ビ獨立  
國ト爲リ、**瑞西**共和國ト稱シ、其頃二十二州ニ分  
テリ、其後、國內黨與分レ、且**教法**ノ異論ヨリ、人心  
一和セズ、終ニ、千八百四十五年、**舊教**ニ属スル者、



兵ヲ起セリ、然レモ、忽チ之ヲ鎮定ス、後、諸州ノ法  
度、互ニ異リテ、政令至ク一致セザルニ因リ、千八  
百四十八年、孝明天皇大ニ全國二十二州ノ代議  
士ヲ集會シ、國法ヲ改革シ、大統領ヲ立テ、公會ノ  
法ヲ設ケ、全國ノ政務ヲ執行スルト爲レリ、

和蘭 比耳時

和蘭ハ、獨逸ノ西北ニアリ、ネーデルラントト稱  
ス、古代ハ、比耳時ト共ニ、一國タリ、羅馬大將セサル  
ノ時、之ヲ征服シテ、其屬地ト爲ス、後、羅馬ノ末世  
ニ至テ、國內大小ノ諸侯、各土地ヲ分領セシガ、佛

帝シャルレマンノ時、全國皆其封土ニ入ル、帝歿シ  
テ、佛國ト獨逸ト戰爭起ルニ及ビ、此國常ニ獨逸  
ニ與ス、其後數百年間、諸侯貴族尙諸州郡ヲ分領  
シ、皆土着シテ互ニ獨立シ、一定ノ國王アラザル  
ガ故ニ、動モスレバ、兵ヲ交ヘ、戰爭屢起リ、又諸侯  
互ニ婚姻ヲ結ブノ故ヲ以テ、領地ニ沿革ヲ生ジ、  
終ニ國內ノ州郡、大畧佛國ノ大諸侯ブルゴンジ  
公ノ領地ニ歸セリ、ブルゴンジ公ノ女、埃地利帝  
ト婚スルニ及ビ、終ニ又埃國ニ歸シ、其後、轉ジテ  
西班牙ノ屬ト爲ル、時ニ、西班牙王ヒリッポ、殘忍ニ



シテ民ヲ虐シ、殊ニ教法改革ノ時、嚴ニ新教ヲ禁  
 ジ、殺戮ヲ恣ニセシカバ、國人皆王ヲ怨ミテ兵ヲ  
 舉ケ、之ニ敵シ、千五百七十九年、正親町天皇終ニ  
 合衆國ト爲ル、此時ヨリ、國內南北二部ニ分レ、南



部ハ今ノ比耳時ニシテ、尙西  
 班牙ニ屬シ、北部ハ今ノ和蘭  
 ニシテ、七州一致シ、キルレム  
 公ヲ推シテ、大將トシ、數年間  
 西班牙ト激戰シ、終ニ獨立ス  
 ルトヲ得タリ、爾後、國勢次第

ニ強ク、其海軍殊ニ盛ニシテ、遠ク西班牙、葡萄牙  
 等ノ屬地ヲ奪ヒ、海外ノ領地甚ダ廣大ト爲レリ、  
 但シ此頃、葡萄牙人ヲ逐ヒテ、日本ヘモ通商ヲ開  
 ケリ、是和蘭最盛ノ時代ニシテ、内ハ國內ノ都府  
 ヨリ、外ハ航海貿易ニ至ルマテ、益其富盛ヲ極メ、  
 終ニ英國ト相競ヒ、千六百五十二年、後光明天帝ヨ  
 リ三年間兩國ノ大戰爭ニ及ビ、屢海軍ヲ以テ英  
 軍ヲ破リ、殊ニデロイトルヲ大將トシテ、テームス  
 河ニ溯リ、英都ノ近傍マデ攻入リ、大勝ヲ得シ  
 アリ、其後、千六百七十二年、英佛獨逸ノ諸國力ヲ



合セテ、四方ヨリ攻來リシガ、キルレム公三世、兵  
ニ將トシ、數倍ノ大敵ト戰テ屈セズ、終ニ和睦スル  
ニ至ル、後、英國ニ内乱起リ、國王ヲ廢スルニ及ビ、  
キルレムヲ迎ヘテ王トス、故ニ、當時和蘭英國合  
併シテ、殆ド一國ノ如ク、力ヲ合セテ、屢佛國ト戰  
争セリ、其後、西班牙ノ王位相續ノ乱起リ、又佛國  
ト戰ヒシガ、其和睦ノ時、比耳時ノ地ヲ、埃地利ノ  
領地ニ歸セリ、  
佛國大乱ノ時ニ當リ、千七百九十二年、佛國ノ兵、  
直チニ比耳時ヲ平ケ、和蘭ニ向ヒタルガ、其頃、和

蘭ノ國內、徒黨相分レ、佛軍ニ向フ能ハズ、終ニ、地  
ヲ割テ、和睦ヲ乞ヒ、バタビヤン合衆國ト號シ、半  
ハ之ニ服從ス、故ニ英國トノ和親破レ、海外ノ領  
地ハ、皆英國ニ奪ハル、次デナポレオン一世、其第  
ルイナポレオンヲ、此國ニ封ジテ、王位ニ即カシ  
メ、始メテ和蘭王國ト稱ゼシガ、久シカラズシテ、  
之ヲ廢シ、千八百十年、全國佛蘭西ノ領ニ歸セリ、  
其後、ナポレオンノ魯西亞ニ大敗スルニ及ビ、和  
蘭ノ國內、皆兵ヲ舉ゲテ獨立シ、キルレム一世ヲ  
立テ王トス、是千八百十四年、  
光格天皇文ナリ、次



戦ノイロトルイヲ



テ埃地利ノ都キーンナノ會議  
ニ於テ、東印度ノ領地ヲ英國ヨ  
リ獲シ、又比耳時ヲ、和蘭ニ合併  
シテ一國トス、又ナポレオンハ、  
エルバ島ヨリ遁レ、再ビ兵ヲ舉  
ゲテ、比耳時ニ侵入スルニ當リ  
和蘭ノ兵英吉利普魯士等ト共  
ニ、之ヲ邀ヘヲートルロニ於テ、大戦シ、遂ニ之  
ヲ破ルニ至ル、其後、國內平穩ニシテ、貿易製造ノ  
業益繁盛ニ赴ケリ、

其後、國民教法ノ異論ヨリ、南北自ラ不和ヲ生シ、  
キルレム二世ノ時比耳時、兵ヲ起シテ、和蘭ニ叛  
キ、數度戦争ノ後、和議ニ及ブ、是ニ於テ、比耳時獨  
立シテ、始メテ王國ト稱シ、獨逸列國ノ内、サキス  
コイブルグノ公子リオポルドヲ迎ヘテ、位ニ即  
カシム、是千八百三十九年仁孝天皇十年ニ在リ、是ヨ  
リ、和蘭比耳時又兩國ニ分レ、和蘭ハ、千八百四十  
九年ヨリ、今代ノ國王キルレム三世位ニ昇リ、比  
耳時ハ、千八百六十五年ヨリ、今王リオポルドニ  
世位ニ即ケリ、



噠馬 瑞典 那威

此三國ハ、歐羅巴ノ北ニアリ、古代之ヲスカン  
ナビアト總稱シ、或ハ分レ、或ハ合シ、今世ハ、瑞典  
那威ノ二國、合併シテ、一王ニ属ス、此國ノ人民、上  
世ニ在テハ、數多ノ部落ニ分レ、風俗強悍ニシテ  
戰鬪ヲ好ミ、且互ニ徒黨ヲ結ビ、兵船ヲ以テ、海賊  
ヲ業トス、紀元八百年代ノ始ヨリ、歐羅巴ノ諸國  
ヲ侵畧シテ、其勢甚ダ猛烈ナリ又國內ノ形勢ハ、  
漸ク許多ノ諸侯ニ分レシ者、又互ニ興亡アリテ、  
小邦相合併シ、九百年代ノ末ニ至リ、終ニ噠馬瑞

典、那威ノ三王國トナレリ、是ヨリ先キ、噠馬ノ人  
民、屢英國ヲ侵シ、土地ヲ蠶食シテ、之ヲ領スルニ  
至ル、次デ八百七十八年ノ頃、英國ノ王子アルフ  
レド、兵ヲ興シテ、噠國人ヲ破リ、漸ク國勢ヲ挽回  
セシガ、久シカヲズシテ、又噠國人、之ヲ攻畧シ、殊  
ニカニト王ノ如キ、終ニ英ノ全國ヲ平定シテ  
領地ニ歸シ、兼テ其國ノ王位ニ昇レリ、又九百九  
十九年一條帝長ノ頃、那威ヲ合セテ、之ヲ領シ、國  
勢最盛ナリ、又那威ノ人民ハ、八百年代ノ始ヨリ、屢  
佛國ニ攻入リタルガ、終ニ北岸ノ地ヲ奪ヒ、ノル



マンヂー侯ト爲ル、其後紀元千六十五年ニ、ノル  
マンヂー侯キルレム、英國ヲ一統セリ、  
噠國王カニエト歿スルハ後、三國又分レ、互ニ戰  
闘アリテ、久シク羈足ノ勢ヲ爲セシガ、女王マ  
ガレットニ至リ、復合併シテ、三國ニ王タリ、此マ  
ガレットハ、那威王ノ妃ニシテ、噠國王ノ女ナリ、故  
ニ那威王ノ歿スルニ及ビ、遂ニ位ニ即キ、兩國ニ  
君臨ス、此頃、瑞典ハアルベルト王ノ世ナリシガ、  
不徳ニシテ、内乱ヲ生ジ、人心皆マリーガレットニ歸  
セルヲ以テ、女王之ヲ平定シ、遂ニ瑞典王ヲ擒ニ

ス、是ニ於テ、千三百九十七年、後小松天皇應永四年、女王、三  
國ノ名代人ヲカルマルニ會合シ、共ニ一致シテ、  
萬世永續スベキ盟約ヲ爲セリ、然ルニ、女王歿ス  
ルノ後、代々ノ王、皆噠國ニ都シテ、瑞典、那威ヲ抑  
制セルガ故ニ、兩國皆之ヲ怨マリ、殊ニクリステ  
ア<sup>ン</sup>ニ世、不徳ニシテ、政令益乱レ、千五百二十四  
年ニ至リ、大ニ内乱起リ、國民、終ニ王ヲ逐休ケ、其  
伯父フレデリックヲ立テ王トス、瑞典モ亦久シク、  
噠國王ノ虐政ヲ怨嗜セシガ、此内乱ニ乘ジ、故ノ  
國王ノ子孫、グステア<sup>フ</sup>ワツサ、民間ヨリ起リ、兵ヲ



舉ゲテ、全國ヲ平定シ、終ニ獨立國ト爲ルヲ得タ  
 リ、然レモ、那威ハ尚久シク連國ニ属セリ、  
 其後獨逸ニ於テ、教法改革ノ淨亂起ルニ及ビ、三  
 國共ニ新教ヲ奉ズル國ナレバ、兵ヲ出シテ、獨逸  
 帝ト戦ヘリ、殊ニ瑞典王グステフアドルフハ自  
 ラ精兵ヲ帥キテ、數倍ノ大軍ヲ破リ、大ニ勇戦セ  
 シガ、終ニ命ヲ殞セルニ至ル、然レモ此戦争ノ和  
 議ニ因テ、瑞典ノ疆土、大ニ擴マリバルチック海ノ  
 濱ニ達シ、尋デ兵制ヲ改革シ、學問貿易ヲ進メ、國  
 勢更ニ強大ニシテ、連國ト相競ヘリ



瑞典ノ都ノストックホルム

其後瑞典ノ有名ナル國王ハ、  
 ールス十三世ニシテ、霸業ヲ企  
 テ、四隣ヲ覆ス此頃魯西亞ハ、  
 ビートル帝ノ世ニシテ帝モ亦  
 土地ヲ西方ニ擴メントス、是ニ  
 於テ、兩雄相争ヒ、數年間ノ大戦  
 争アリ、チャールス主ハ、直チニ魯

國ノ内地ニ侵入セント欲シ、千六百九十七年、  
 天皇元年、大軍ヲ帥キテ魯國ノ南部ニ侵入シ、  
 十一年、大戦シ、敗レテ土兒其二道ル、此戦争ニ







移轉ノ時、ウイッゴツツト名ツクル人民、此國ニ移住  
 シテ、邦土ヲ分領セリ、然ルニ、亞細亞ノアラビヤ  
 ニ、アラビヤ回教起リ、其門徒兵力ヲ以テ、四隣ヲ滅逼シ、  
 領地ヲ擴ムルニ當リ、紀元七百年ノ頃ヨリ、此國  
 モ亦回教門徒ノ爲メニ攻入ラレ、其勢猛烈ニシ  
 テ、國人之ヲ防グテ能ハズ、全國終ニ其有ニ歸ス  
 回教法王、此國ニ在住シ、所々ニ都府ヲ建テ、邦土  
 ヲ領畧セリ、土人ハ皆之カ爲メニ、山中ニ引退キ、  
 嶮<sup>ル</sup>嶮ノ地ニ據リ、敢テ屈セス、カヲ盡シ、アラビヤ  
 人ト戰鬪スル<sup>ト</sup>、數百年間止ム<sup>ト</sup>無カリシガ、次

第二邦土ヲ恢復シ、アラビヤ人ヲ逐退ケ、大小ノ  
 諸侯相集テ、土地ヲ分領スルニ至レリ、  
 其後、紀元千四百四十五年ノ頃、後花園世ニ至リ、國  
 勢次第ニ凌準シテ、大ハ小ヲ併セ、四王國ト爲ル  
 即チ、葡萄牙カスチルアラゴンナバトル等是ナ  
 リ、アラゴンノ王ヘルチナント、千四百七十九年、  
 位ニ即キ、カスチルヲ併セ又ナバトルヲ平ゲア  
 ラビヤ人ノ尚南部ニ在ル者ヲ逐攘ヒ、終ニ大國  
 ト爲リ、國ヲ西班牙ト號ス此頃ヨリ、國勢甚盛ニ  
 シテ地中海中ノ諸島ヲ併セ、航海ノ業最開ケ、又



以太利人ナル、コルムブスニ船ヲ給シ、始メテ  
 亞米利加ノ地ヲ發見セシメ、其地ヲ開拓シテ、版

圖ノ帆山スバムルコ



圖ヲ廣ク利益ヲ得ル、  
 頗ル大ナリ、  
 此頃、葡萄牙國モ亦航海  
 ノ業、次第ニ繁盛ニ赴キ、  
 國王ヘマリ、殊ニ之ヲ勉  
 勵セシメ、毎年數艘ノ船  
 艦ヲ出シテ、亞非利加洲  
 ノ海岸ヲ經歴セシム、是

ヨリ先キ、既ニマデラアゾール等ノ諸島ヲ  
 シ、尚漸クニ、亞非利加ノ西岸ニ沿ヒ、領土ヲ廣メ、  
 且、是ヨリ以前、海路ヨリシテ、印度ニ至リ難キヲ  
 以テ、常ニ此海路ヲ開カント志セシガ、千四百八  
 十六年、此國ノ船、始メテ亞非利加ノ南端ニ達シ、  
 歸リテ後、其地ヲ喜望峯ト名ヅク、其後、數年ナラ  
 スシテ、喜望峯ヲ廻リ、東印度ニ航海スル針路ヲ  
 發見ス、是皆亞米利加ノ檢出前ニ在リ、是ヨリ、印  
 度及ビ印度海ノ諸島ヨリ、漢土ヘ交易ヲ開ク、是  
 明ノ世ナリ次デ、日本ヘ來ル、是天文年中ナリ、蓋

新編 東洋通志 卷之七 七



シ、是ヨリ以前ハ印度地方ノ產物、皆駱駝ヲ以テ  
遠ク陸路ヲ運搬シ、辛クシテ貿易セシニ、今海路  
ヨリ、自在ニ往來運送スルヲ得テ、葡萄牙リスボ  
ンノ港ハ忽チ歐羅巴第一ノ都會ト爲リ、頗ル繁  
華ヲ極ムルニ至レリ、

西班牙王ヘルヂナンドハ、唯一女アリテ、奧地利

ノ公族ヒリップニ嫁シ、太子チヤールスヲ生メリ千

五百十六年、後相原帝永正十三年西班牙王歿スルニ及ビ、

他ニ血統無ケレバ、之ヲ迎ヘテ、位ヲ繼ガシメ、チ

ヤールス一世ト稱ス、又三年ヲ歷テ奧地利ノ位ヲ

繼ギテ、帝位ニ昇リ、獨逸ニ於テチヤールス五世ト

稱ス故ニ兩國合併シテ、一國ト爲リ且和蘭比耳

時、及ビ佛蘭西ノ東方ヨリ、以太利ノ過半ヲ合セ

テ、廣大ノ封土ヲ管轄シ、又南北亞米利加ノ諸地

ヲ攻取リ、海外ノ屬地モ、更ニ多ク、古來未曾有ノ

大國ト稱セリ、然ルニ、教法改革ノ争亂起リ、獨逸

國內穩カナラズ且佛王フランシス、專ヲチヤール

ス帝ト競ヒテ、積年戦争絶エザリシガ、終ニ歐羅

巴全洲、己ノ意ノ如クナラザルヲ見テ、千五百五

十六年、忽チ自ラ位ヲ退キ、斷然世ヲ棄テ山寺ニ



遣レ、終身經シヲ讀ミ、器物ヲ玩弄シテ終レリ、  
 チャールス、帝位ヲ退クニ當リ、西班牙和蘭比耳時  
 及ビ海外ノ領地ヲ合セテ、其子ヒリッポ二世ニ讓  
 リ、墺地利ノ位ハ、其餘へルチナントニ讓レリ、ヒ  
 リッポ二世ハ、殘忍頑固ノ人ニシテ、舊教ヲ尊奉シ、  
 新教ニ歸スル者ヲ嚴罰ニ處シ、人ヲ殺ス、其數  
 ヲ知ラズ和蘭ノ如キ、終ニ兵ヲ舉ゲテ、獨立國ト  
 爲レリ、又葡萄牙王ヘマリハ、ヒリッポノ伯父ナリ  
 シガ、太子無クシテ歿ス、千五百八十年、ヒリッポ二  
 世、其遺ニ乘シテ、葡萄牙ヲ平ゲ、合併シテ一國ト

爲ス、然ルニ、和蘭ノ勢次第ニ盛大ニ至リ、西班牙  
 葡萄牙兩國ノ屬地ノ、亞細亞亞米利加ニ在ル者  
 ヲ奪取リシカバ、此國ノ貿易大ニ衰微シ、國內騷  
 擾シテ、甚ダ平穩ナラズ、更ニ又英國和蘭等ト戰  
 争ヲ起シ、大ニ敗北シテ、其滅勢益衰フ、千六百四  
 十年明正天皇寛ニ至リ、葡萄牙國モ、亦兵ヲ舉ゲ  
 テ獨立シ、ブラガンサ侯ジョンヲ立テ王トス、然レ  
 度、東印度諸島ノ領地ハ、大畧既ニ和蘭ニ奪ハレ  
 シニ因リ、國勢更ニ振ハサルニ至レリ、  
 西班牙王チャールス二世、千六百六十八年ヨリ、屢



佛國ト兵ヲ交ヘ、國力大ニ疲弊ス、其歿スルニ及  
 ビ太子無ク、王家ノ系統絶エタリ然ルニ、埃地利  
 ノチャールス、及ヒ佛蘭西ノルイ十四世ノ孫ヒリ  
 アハ、共ニ其紛綵ナルヲ以テ、王位ヲ爭ヒ、互ニ戰  
 端ヲ發シ英吉利、和蘭、葡萄牙ノ諸國、皆埃地利ニ  
 カヲ合セ佛國ヲ攻メ、加フルニ、國內又徒黨相分  
 裂シ、千七百年ヨリ十三年間ノ大乱ト爲レリ是  
 ヲ西班牙國王位相續ノ乱ト云フ、後ヒリッブ終ニ  
 位ニ即キ、和睦ヲ行フト雖ヒ、多年ノ爭乱ニ由テ  
 國勢益衰運ニ赴ケリ、

英佛軍西班牙戰圖



彌徠、葡萄牙ハ、英國ト連合スル  
 ニ因リ、佛國ナポレオン帝ノ盛  
 ナルニ及ビ、其侵入ヲ受ケ之ニ  
 敵スルヲ能ハス、千八百七年葡  
 萄牙王、國ヲ棄テ、其南亞米利加  
 洲ニアル領地ブラジルニ遁ル

次デ西班牙國モ、亦國王チャールス四世ト、太子ソ  
 間ニ、内乱起リ、佛兵、此機ニ乘シテ侵入シ、之ニ敵  
 スルヲ能ハズ、是ニ於テナポレオン、遂ニ西班牙  
 王ヲ廢シ、自ラ其兄ジョゼフ、ナポレオンヲ封シ



テ國王トス、然レモ、國人之二服ヒズ、兵ヲ舉ゲテ之ニ抗シ、屢戰爭アリ、然ルニ、英國ノ大將エルリントン、兵ヲ出シテ、西班牙ヲ援ケシカバ、全國之ガ爲メニ、氣力ヲ得テ、益佛兵ト、激戦シ、次第ニ之ヲ國境外ニ逐卻ク、ナポレオンノ魯國ニ敗軍スルニ及ビ、直チニ英國ノ兵ト共ニ、佛國ノ都ニ攻入り、次テ、埃地利ノ都キーンナノ會議ニテ、葡萄牙ヲ舊ニ復シ、西班牙ハヘルチナント七世ヲ立テ王トス、  
初メ、葡萄牙王ハ、都ヲ亞米利加ニ遷スト雖モ、内

亂ニ因テ、其地ニ止マルヲ得ズ、千八百二十二  
年終ニ、太子ペトロヲ留メテ、本國ニ歸レリ、然ル  
ニ、ペドロ、須立シテ、ブラジル國ノ皇帝ト稱ス、葡  
萄牙國王、歿スルニ及ビ、衆議ニ因テ、ペドロノ女  
マリーヲ立テ、女王ト爲セシニ、其伯父シグエル  
之ヲ廢シ、自立シテ王ト爲ル、是ニ於テ、ブラジル  
帝ヘドロ、位ヲ其幼弟ノ太子ニ釋リ、自ラ兵ニ將  
トシテ、葡萄牙ニ攻ハリ、其弟シグエルト戦ヒ之  
ヲ逐卻ケ、終ニマリーノ位ヲ復ス、然レモ、國內徒  
黨相競ヒテ、平穩ナラズ、女王歿スルニ及ビ、太子



ヘドロ五世、繼テ立チ、又今代ノ王ルイ一世ニ傳ヘタリ、

西班牙國ハ、ヘルナンンド七世、千八百三十四年ニ歿シ、其幼女イサベラ、位ヲ繼キシガ、此國女王、位ニ居ルノ舊例ナキヲ以テ、前王ノ弟チャールス、之ヲ續リ、黨ヲ結ンデ、大ニ騷擾ヲ起セリ、數年ノ後、政府ノ兵漸ク之ヲ鎮定スト、雖厄千八百六十八年、明治ヨリ、又烈シキ内乱起リ、女王佛國ニ遁ル、爾來、國體ヲ改メテ、合衆國ト爲セシガ、更ニ王國ニ復セント欲シ、千八百七十年、普魯士ノ王族

ヲ迎ヘ立テントスルヨリ、終ニ普魯七佛蘭西ノ大戦争ト爲リテ、其事止メリ、然レモ、翌年終ニ以大利王ノ次子ヲ迎ヘテ國王トス、之ヲアメデオ一世ト稱シ、即チ今代ノ國王ナリ、

以大利

此國ハ、歐羅巴ノ南部ニアリ、元來羅馬帝國ノ本部ニシテ、其亡ナルノ後、或ハ東羅馬ノ版圖ニ歸シ、或ハ佛國シャールマン帝ノ領地ト爲リ、許多ノ沿津ヲ歷タリシガ、隨テ内乱常ニ止マズ、獨逸帝オソ一世、之ヲ平ゲ、紀元九百五十一年、村上天皇天曆四年



以太利王ノ位ヲ繼承ス、當時此國ノ北部ハ、獨逸  
 帝ニ屬シ、中部ハ羅馬法王ノ領ニ歸シ、南部ハシ  
 ・リ、國トス、後十字軍ノ起レル頃ヨリミラン  
 セノアフロレンス、ペーリス等、處々ノ都會繁盛  
 ニ赴キ、合衆府ト稱シテ獨立シ、獨逸帝ニ抗敵シ  
 終ニ侯國ト爲ル者アリシヨリ國內數多ノ邦國  
 ニ軀分セリ、  
 此國古來ヨリ戰乱ノ首場ニツテ、多年、獨逸帝ト、  
 羅馬法王ト、相競ヒテ、爭擾久シク止マズ、又、埃國  
 ト、佛國ノ戰爭ニ因テ、國內常ニ干戈ヲ動カシ、各

穢淨

州互ニ興亡アリ、後、佛國大騷動ノ時、ノボレオン  
 ノ爲メニ攻逐セラレ、全國大抵其管轄ニ歸シ、唯  
 ヘニ、イスノミ、尚埃國ニ屬セリ、埃都キーンナノ  
 大會議ニ因テ、各國ノ境界ヲ定ムルニ及ビ、國內  
 ノ侯伯、又各藩土ニ復ス、此時ニ當テ、國中ニペニ  
 リス、サルヂニア、フムバルデーネーブルス等ノ  
 王國、及ビ羅馬法王ノ領土アリ、又、パルマモデナ  
 トスカニー等ノ侯國アリ、其中ペニーノ國ハ、固  
 ヨリ埃國ノ所轄ニシテ、其他ノ王侯モ、亦埃國ノ  
 親屬ニ係ル者アリテ、其威力ニ依賴スル者、少カ



ラズ、又サルヂニア國ハ、此時小國ナリト雖<sup>モ</sup>、後  
來全國ヲ一統シ、方今以太利國ト稱ズルノ基本  
タリ、

紀元千八百二十年以來、ピルモンローブルス  
羅馬等ノ都府ニ内乱屢起リ、争擾止マザルヲ以  
テ、各邦壤國ノ援兵ヲ乞ヒ、漸ク之ヲ鎮壓スト雖  
モ、其勢全ク平定ニ至ラズ、蓋シ、國內各邦ノ政令  
皆威權ヲ以テ、庶民ヲ抑制セシヨリ、人心怨ヲ含  
ムト深ク、殊ニジョーゼフ、マツジニナル者ヲ巨魁ト  
シテ、民政ヲ主張スルノ黨、國內ニ蔓延シ、千八百

三十年以來又屢々ニ徒黨起リテ政府ニ抗敵ス、  
是ニ於テ、壤國ノ老大將ヲデツキ、兵ヲ率キテ、ロ  
ムバルヂーノ都ミアンニ屯セシガ民政黨ノ勢  
甚盛ニシテ、之ヲ鎮定スル能ハズ、終ニ兵ヲ班ス  
ニ至レリ、此時、サルヂニア王キヤールス、アルベル  
トハ、獨リ他邦ノ君主ト異ニシテ、威權ヲ私セズ、  
專ラ民政ヲ主張シ、兵ヲ起シテ、壤國ト戦ヒ、モデ  
ナバルマ<sup>等</sup>ノ數邦ヲ平ケ、ロムバルヂーニ侵入  
セシガ、壤國ノ大將ヲデツキノ爲メニ、大ニ敗ラ  
レモデナバルマ<sup>等</sup>ヲ舊ニ復シテ漸<sup>ク</sup>和議ヲ講ゼ



リ、然レモ、ジョーゼフ、マツシヨ、及ビガリバルジ等民政  
 黨ノ兵ヲ指揮シテ法王ヲ逐黜ケ、羅馬府ニ據ル、  
 各地、復々興沸シテ、煥國ノ兵ニ抵抗シ、更ニサル  
 デニア王ニ逼リテ、援兵ヲ假ラン、テムカラヲ乞フ、故ニ  
 チヤールス、アルベルト、再ビ兵ヲ起シテ、煥國ト戦  
 ヒシガ、イイテマ激寡敵セズシテ、又大ニラデツキノ爲メ  
 ニ破ラレ、國力疲弊シテ、如何トモスル、イイテマ能ハズ、  
 竟ニ和ヲ煥國ニ乞ヒ、即日ニ位ヲ太子ビシトル、  
 エムマ、マヨエル二世ニ讓テ、他國ニ退去セリ、後煥

國佛國、西班牙等、相結ンテ、國內ノ一揆ヲ平ゲ、千  
 八百四十九年、羅馬府ヲ陷シイレ、法王及ビ各邦  
 ノ君主ヲ舊ニ復ス、是ニ於テ、各邦皆嚴ニ民政黨  
 ヲ追捕シ、益政府ノ威權ヲ張レリ、然ルニ、サルヂ  
 ニア國ハ、獨リ國民ノ不羈自由ヲ肯トシ、政令法  
 度ヲ改革シテ、專ラ仁惠ヲ  
 施セルガ故ニ、全國ノ人民  
 皆後來ヲ望ミ、サルヂニア  
 王ニ歸セリ、  
 爾後、サルヂニア王ハ、國力

ルコスマムエルトクヒ





ヲ養ヒ、兵馬ヲ精練シ、潛ニ佛帝ナポレオン三世  
ト約シテ、フランス煥國ヲ挫ガントスルノ機會ヲ待チシ  
ガ、千八百五十九年、六年政終ニ煥國トノ和親破レ、  
彼ヨリ戰端ヲ開クニ至リ、佛帝自ラ大軍ヲ帥キ  
テ、急ニ以太利ニ入り、サルチニアヲ助ケテ煥軍ト  
マゲンタ、リルヘリノ等ニ於テ、大戰シ、終ニ之ヲ  
破リ、ロムバルチーヲサルチニアニ附シ、和議ヲ  
講ズ、同時ニ、トスカニー、モデトバルマ等、諸邦ノ  
國民、蜂起シテ、君主ヲ逐ヒ、サルチニアニ屬セン  
ト欲ス、此動乱、次第ニ全國ニ弥漫シ、民心、皆風ヲ

望ンデサルチニアニ歸向シ、以太利北部ノ半ハ、  
皆其版圖ニ歸セリ、翌年、以太利ノ南部ニ、一揆起  
ルニ、フランス彼民政黨ノ巨魁ナル、ガルバルジヲ大  
將トシ、兵ヲ出シテ、シリ島ニ上陸セシメ、ネ  
ーブルスニ進發セシム、ネーブルス王兵ヲ出シ  
テ、之ヲ拒ムト雖也、敵スルヲ能ハスカルバルジ  
ノ軍、數月ナラズシテ、盡ク以太利ノ南部ヲ平ズ、  
是ニ於テ、羅馬法王ノ領地、及ピスニースヲ除ク  
ノ外、全國盡クサルチニアノ疆土ニ歸シ、乃チピ  
クトル、エムマヌエルハ、全國ノ代議士ヲ、チリン



府ニ會シ、國法ヲ定メ、終ニ以太利王ノ位ニ昇レ  
 リ、其後、千八百六十六年、埃國ト普國ノ間ニ戰爭起  
 ルニ及ビ、此國モ亦埃國ト戰ヒ、メニースノ地ヲ  
 棄ヘリ又羅馬法王ノ領地ハ、久シク佛國ヨリ兵  
 ヲ屯シテ、國民ノ騷擾ヲ鎮撫セシガ、千八百七十  
 年、明治普佛兩國ノ戰爭ニ因テ、其屯兵ヲ引上ケ  
 シヨリ、以太利ノ兵、忽チ羅馬ニ入リ、法王ヲ逐ヒ  
 テ、之ヲ廢セリ、是ニ於テ、全國盡ク一政府ノ管治  
 ニ歸セリ、

羅馬法王ハ、元來、基督教ニ於テ至貴至尊ナル高

僧ニシテ、今ノ天主教ヲ總管セシ者ナリ、初メハ、

絶テ土地ヲ領セザリシガ、佛國ノベピニ王、及ビ

シ、レマン帝等、專ラ法王ヲ尊信シ、土地ヲ附與

シテ、紀元七百五十年、孝謙帝ノ頃、法王ステヘン

三世、始メテ政事ノ權ヲ有シ、爾來、全ク獨立セル

一國ト爲リ、次デダレゴリ、七世ノ如キ、最權力

アリ、且、全洲、教派ノ本宗タルヲ以テ、一時、列國ノ

王侯ヲ服從セシメ、之ニ枕スル者ハ、爵シテ、教中

ニ齒セザラシムルニ至ル、紀元、千五百年ノ頃ハ、



此國最モ著名ナル年代ニシテ、法王ジユリユス  
 二世ノ如キ、非常ノ才カラテ、更ニ其威名ヲ轟  
 カセリ、後、獨逸ニルゼルト名ツクル高僧出テ、新  
 教ノ一派ヲ創ス、是、今謂フ所ノ耶蘇教ナリ、是ヨ  
 リ、各國之ニ、歸依スル者多ク、法王ノ威權、漸クニ  
 衰フ、（フランクフルト）降テ、（フランクフルト）ナポレオン一世ノ時、國土全ク佛國ニ  
 歸スト、（フランクフルト）雖、（フランクフルト）厄、（フランクフルト）埃都ノ會議ニ於テ、再ビ舊ニ復ジ、次  
 デ、千八百四十八年、内亂ニ因テ、法王ヲ逐ヒ、合衆  
 國トナリシガ、佛國埃國ノ兵之ヲ平ゲ、又法王ヲ  
 舊ニ復ス、其後、千八百七十一年、（明治四年）法王黜ケラ

譯

レ其地、盡ク以太利政府ニ歸ヒリ、

土兒其

土兒其ハ歐羅巴ノ東南ニアリ、其國人、古ヘ韃靼  
 内地ノ人民ニシテ、回教法王ニ屬セシガ、其疆土  
 今裂スル頃、波斯アルメニア等ノ一部ヲ蠶食シ、  
 紀元千年代漸ク國ヲ建テ、千三百年代ノ初メ、オ  
 トマン王ニ至リ、次第ニ東羅馬ノ版圖ヲ蠶食シ、  
 大畧小亞細亞ヲ平定シテ、始メテシユルタン（帝王）  
 ノ位ニ昇ル、之ヲ土兒其（シユルタン）ノ始祖トス、故  
 ニ又國號ヲオトマン國ト稱ス、其後、國勢次第ニ



盛ニシテ、版圖ヲ廣ク、千三百六十年、後村上天皇正平中ノ頃、アムラツト一世、イミナシキ歐羅巴ニ侵入シ、テドリヤク  
 ポルニ都ス、イミナシキ茨デバジゼト一世、イミナシキ英邁豪毅ニシテ、  
 大畧東羅馬ノ領地ヲ攻取リ、又ホニガリ一國ニ  
 侵入ス、ホニガリ一王、佛國及ビ獨逸諸國ノ兵ト  
 連合シテ、之ヲ防禦スト雖、其勢頗ル歐羅巴ヲ  
 覆<sup>ラフ</sup>センム、然ルニ、其頃、帖木兒ノ兵、イミナシキ韃靼ヨリ起  
 リ、大畧亞細亞洲ノ西部ヲ平定シ、遂ニ土兒其ト  
 兵ヲ交フルニ至ル、バジゼト一世、自ラ大軍ヲ將  
 率テ、帖木兒ト、小亞細亞ノアンゴラニ會戰ス、時

ニ千四百二年ナリ、兩軍ノ劇戰ニ、イミナシキシュルタン、遂ニ  
 帖木兒ノ爲メニ擒ニセラレテ死ス、是ニ於テ、國  
 内大ニ動揺セリ、  
 バジゼトノ子マホメット一世、位ニ即キ、國勢ヲ挽  
 廻シ、マホメット二世、千四百五十三年、終ニ、イミナシキコンス  
 タンテ、ノポルヲ陷レ、東羅馬ノ帝國ヲ亡ボシ、爾  
 來、國都ヲ此ニ定ム、次デ更ニ強盛ニ赴キ、四隣ヲ  
 攻畧シ、セリム一世、又エジプトヲ平定シ、其領地、  
 歐羅巴、亞細亞、亞非利加ノ三洲ニ跨レリ、殊ニソ  
 リマン二世ハ、最モ有名ナルイミナシキシュルタンニシテ、千

攪



ソリマニ世



至ル、又東ハ亞細亞ノ各國ヲ蠶食シ、田教法王ノ都ヲ攻メテ、之ヲ陷シイレ、南ハ亞非利加ノ北部ヲ平定シ、且國內ノ政令ヲ改竄シ、法度ヲ

五百二十年、後世即キ、永正十年位ニ即キ、口正アス島ヲ亡ボシ、ホ正ンガリ七國ヲ攻畧シテ、正屬國ト爲シ、次正ア獨逸ノ納地ニ侵ハシ、正壤地利ノ都キ正ーンナヲ攻圍ムニ

建テ大ニ英名ヲ轟セリ、是ヲ土兒其國勢ノ最モ盛ナル時トス、

千五百二十年、ソリマン二世歿シ、セリム二世繼テ位ニ昇リ、更ニ又各國ト戦争シ、數代ノ間魯國壤國等ト、屢兵ヲ交ヘ、東方ニ於テハ、又波斯國ト互ニ境界ヲ争ヘリ、爾後世々相繼テ、國勢漸ク衰ヘ、屢魯西亞ト戦争ニ及ビシガ、常ニ大敗シ、遂ニ地ヲ割キ和ヲ講ズ、蓋シ、此頃魯國ノ勢、日ニ強盛ナリシニ、之ト境ヲ接スルガ故ニ、屢争端ヲ開キ戦争ニ及ブト雖、正之ニ抵抗スル能ハズ、殊ニ、千



八百二十九年ノ戦争ノ如キ、大敗シテ、魯軍アド  
 リアノツポルニ侵ハシ、和睦スルニ及ニテ、更ニ  
 封土ヲ縮小セリ、又當時國內ノ形勢ハ、内乱頻ニ  
 起リ、國力疲弊シ、希臘ノ人民、兵ヲ舉ゲテ叛キ、終  
 ニ獨立スルニ至レリ、次デ八百五十三年、更ニ魯  
 國ト不和ヲ生ジ、此國復大敗ニ至ラントス、然ル  
 片ハ、魯國益強大ニ赴キ、遂ニ歐羅巴洲ヲ睥睨セ  
 ントスルノ勢ナルヲ以テ、英佛ノ兩國、土兒其ヲ  
 助ケテ、魯國ノセバストポルヲ攻撃シ、二年餘ノ  
 大戦争アリテ、終ニ和睦ヲ定ムルニ及ベリ、千八

百六十一年、アブドルアシス位ニ即ク是ヲ冷代  
 ノシルタントス

魯西亞國

魯西亞ハ歐羅巴ノ東端ニアリテ、方今此類ナキ  
 大國ナレド、其盛大ノ勢ヲ爲セシハ二百餘年來  
 ノ一ニテ、夫ヨリ以前ハ、國內分裂シ或ハ久シク  
 蒙古ニ服シ未タ開化ニ赴カズ、蓋シ其初メ、歐羅  
 巴洲民大移轉ノ頃、スヲホニツクノ野民、此地方ニ  
 移住シテ、漸ク繁行シ互ニ戰鬥シテ止マズ、其中  
 ノ一ゴロト及ヒキーフノ兩部最モ繁榮セリ紀



元八百六十二年清和帝ノ頃、リゴロツトヲ領シ、近隣ヲ平定ス、即チ魯國割據ノ主ナリ、後邦土分裂シ、諸侯割據セシガ、紀元九百九十年ノ頃、ウラシミルノ世ニ至リ、領地次第ニ廣ノリ、又東羅馬帝ノ妹ヲ娶リ、希臘教ヲ用キ、國內ニ冷シテ、之ヲ崇奉セシム、其後、二百餘年ヲ歷テ、亞細亞洲蒙古ノ兵ノ侵掠ヲ被アリ、屢漢土元代ノ將帥、國內ニ攻入り、大小ノ諸侯、或ハ亡ビ、或ハ之ニ服從シ、貢ヲ納レテ、全ク其屬國トナルト凡二百餘年間、イワンワシリキク公ニ至リ、兵ヲ

起シテ、蒙古ト戰日、紀元千五百年代ノ初ニ、漸ク國內ヲ平定ス、然レニ、東南ノ地方ハ、尙蒙古ニ屬シ、魯西亞ノ領地未タ甚タ大ナラズ、且學問風俗等、未タ開ケマシテ、久シク歐洲各國ト交通セザリシガ、千五百五十年ノ頃、イワン二世獨逸英吉利、和蘭等ヨリ、學者製造家ヲ招キ、國內ノ製造諸術ヲ進メ、次第ニ貿易ヲ開ケリ、次デ、ペートル帝ニ至リ、國勢一変シテ、忽チ歐羅巴中至大ノ強國トナレリ、  
初メ、ペートル帝、モスコフ府ニ在リテ、和蘭人ニ



帝ルトーベ



數學ヲ學ビ且歐羅巴各  
國ノ形勢及ビ學術ヲ傳  
聞テ大ニ奮發ノ心ヲ  
興シ自ラ之ヲ經歷シ國  
勢ヲ更張セシムルヲ欲シ  
千六百九十年元禄ノ頃

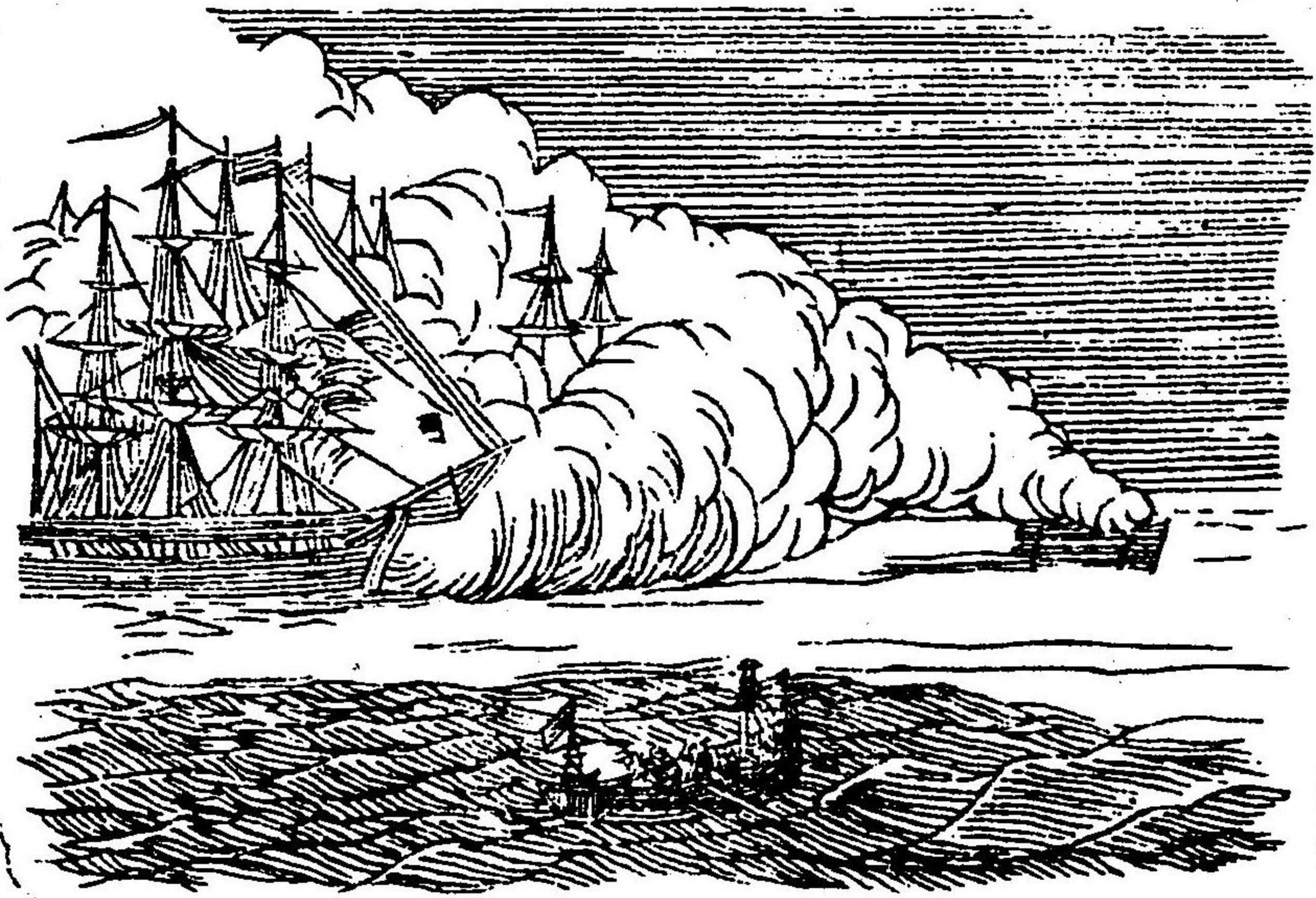
國內ノ貴族ヲ併ヒ各國ヲ遍歴シ和蘭ノアムス  
テルダムニ於テ親シク造船ノ術ヲ學ビ又地理  
政治等諸學ノ要旨ヲ受ク再ヒ獨逸英吉利等ヲ  
巡歴シテ文學百藝ニ達シタル者ヲ伴ヒ歸國ノ

後、制度ヲ改メ、學術ヲ開キ、新タニ都ヲ建テ、ペ  
ートルスブルグト名ツケ、製造貿易ノ業ヲ勵マ  
シ、急ニ海陸軍ヲ盛大ニシ、富強ノ基ヲ固クセリ  
故ニ、國人其盛業ヲ贊シテ、大帝ト尊稱ス、又瑞典  
王チャールス十二世ト隙ヲ起シ、連年戦争ニ及ビ、  
終ニ之ヲ破レリ、千七百二十七年、ペートル帝歿  
スルノ後、次第ニ、歐羅巴各國ト戰端ヲ開キ、殊ニ  
屢土兒其ト戰フ、女帝カタリナ二世ノ時シベリ  
アノ地ヲ檢出シ、大ニ亞細亞ノ北部地方ニ領土  
ヲ擴メ東カムシツカニ至ル、又大舉シテ土兒其ヲ



攻メ、千七百六十二年ヨリ、三十餘年間、數度ノ戰争アリ、アレキサンデル帝ノ世ニ、佛國ナポレホ  
 ン、大軍ヲ帥キテ、舊都モスコトニ攻入リシガ數  
 回大戦ノ後、自ラ其都府ヲ燒拂ヒ、佛國ノ大軍ヲ  
 シテ、鐵寒ニ逼ラシメ、其退カントスルニ及ビ、四  
 方ヨリ、之ヲ追撃シテ、大ニナポレホンヲ破レリ  
 次デ、ニコラス帝ノ世ニ、又土兒其ト戦争ニ及ビ  
 大ニ其領地ヲ奪ヒ、千八百二十九年、和議ヲ定メ  
 又ホトランドヲ滅ボシ、普魯士境地利ト共ニ、其  
 地ヲ分領ス、其後ニコラス帝ノ末年、又土兒其ト

セバトスルノ戦



不和ヲ生ズ、此時、英佛ノ兩國、土兒其ヲ助ケ、千八百五十二年ヨリ、殆ト三年間ノ大戦争アリ、殊ニセバストポルノ砲臺ニ於テ、攻守ノ大戦、最モ烈シク、近代有名ノ戦争トス、千八百五十五年、ニコラス帝歿シ、太子アレキサンデル二世位ニ即キ



終ニ和議ニ及ベリ、即チ今代ノ國帝ナリ、

亞米利加洲

發見殖民

紀元千四百年代、足利氏歐羅巴洲ノ各國、次第ニ航海貿易ノ業ヲ開クニ當リ、西班牙、葡萄牙ノ兩國、首トシテ、遠洋ノ航海ヲ務メ、殊ニ、葡萄牙ハ亞非利加洲ヲ廻リテ、東洋ノ海路ヲ搜索セリ、此頃以太利國ノシノアノ人ニ、コルムブスナル者アリ、城童ヨリ、航海ノ術ニ精シク、積年地中海ヨリ、亞非利加ノ海岸ヲ往來セシガ、終ニ種々ノ經驗

今十五歲曰

コルムブス



ニ因リ、大西洋ヲ越エテ、尚西方ニ進行スル片ハ、必ズ人間未發ノ世界アラント考ヘ、之ヲ實地ニ驗セント欲セシニ、自力ニ及ビ難ク、諸國ノ王公ニ説キ勸メシニ、皆空説ナリトシテ、用キラレズ、

次第ニ貧困ニ迫リ、終ニ西

班牙ニ流寓シ、國王ヘルヂ

ナントニ謁シテ、西方ノ新

世界ヲ檢出セントテ説キ

シガ、王妃イサベルラニ其

説ヲ採用セラレ、數艘ノ大



船及ビ路費等ヲ賜ハリ、時ニ紀元千四百九十二年、後土御門天皇皇明應元年、前古未檢ノ大洋ヲ西ニ向テ開帆シ、數月ノ間、海上ノ辛苦ヲ經テ、終ニ今ノ西印度中ノハハマキバ諸島ヲ檢出シ、隨テ之ニ殖民シテ、西班牙國ノ屬地ト爲セリ、歐羅巴ノ各國新世界ノ檢出ヲ聞クニ及ンデ、葡萄牙、英、佛、和蘭、以太利等ヲ初トシテ、各國ヨリモ、船艦ヲ送リ、次第ニ亞米利加ノ大陸ヲ檢出シ、互ニ之ヲ分領シテ、人民ヲ移シ、土地ヲ拓キ、種々ノ產物ヲ得ルニ至リ、漸ク繁盛ニ赴ケリ、千六百年代ノ初メニ於テ、北亞

亞米利加ノ發見



四年、英、佛及ビ西班牙國ノ間ニ不和ヲ生シ、連年

米利加ハ、北部カナダノ地ヲ、佛國ノ領トシ、中央ハ英國ニ歸シ、之ニ接シテ、和蘭、瑞典ノ屬地アリ、夫ヨリ南ハ、メキシコヲ包有シテ、南亞米利加洲ニ跨リ、盡ク西班牙ノ領地トス、然ルニ千六百六十七年、和蘭ノ領地皆英國ニ歸シ、千七百五十



此國ニ於テ戦争ス、後和議ヲ講シ、佛國ノ領地カ  
ナダ、及ビ西班牙ノ領地ヲロリタ、共ニ盡ク英國  
ノ屬地ト爲レリ、

合衆國

紀元千七百五十六年寶曆ノ頃、北亞米利加東岸  
ノ地、盡ク英國ニ歸セシヨリ、土地已ニ盛大ニシ  
テ、貿易モ亦繁盛ニ赴クト雖也、動モスレバ、本國  
政府ヨリシテ、人民ヲ束縛シ、政令宜シキヲ得ズ  
殊ニ收税法ノ公平ナラザルヨリ、國內怨訴スル  
者多シ、然ルニ、英國政府、更ニ威權ヲ挾テ、苛酷ノ

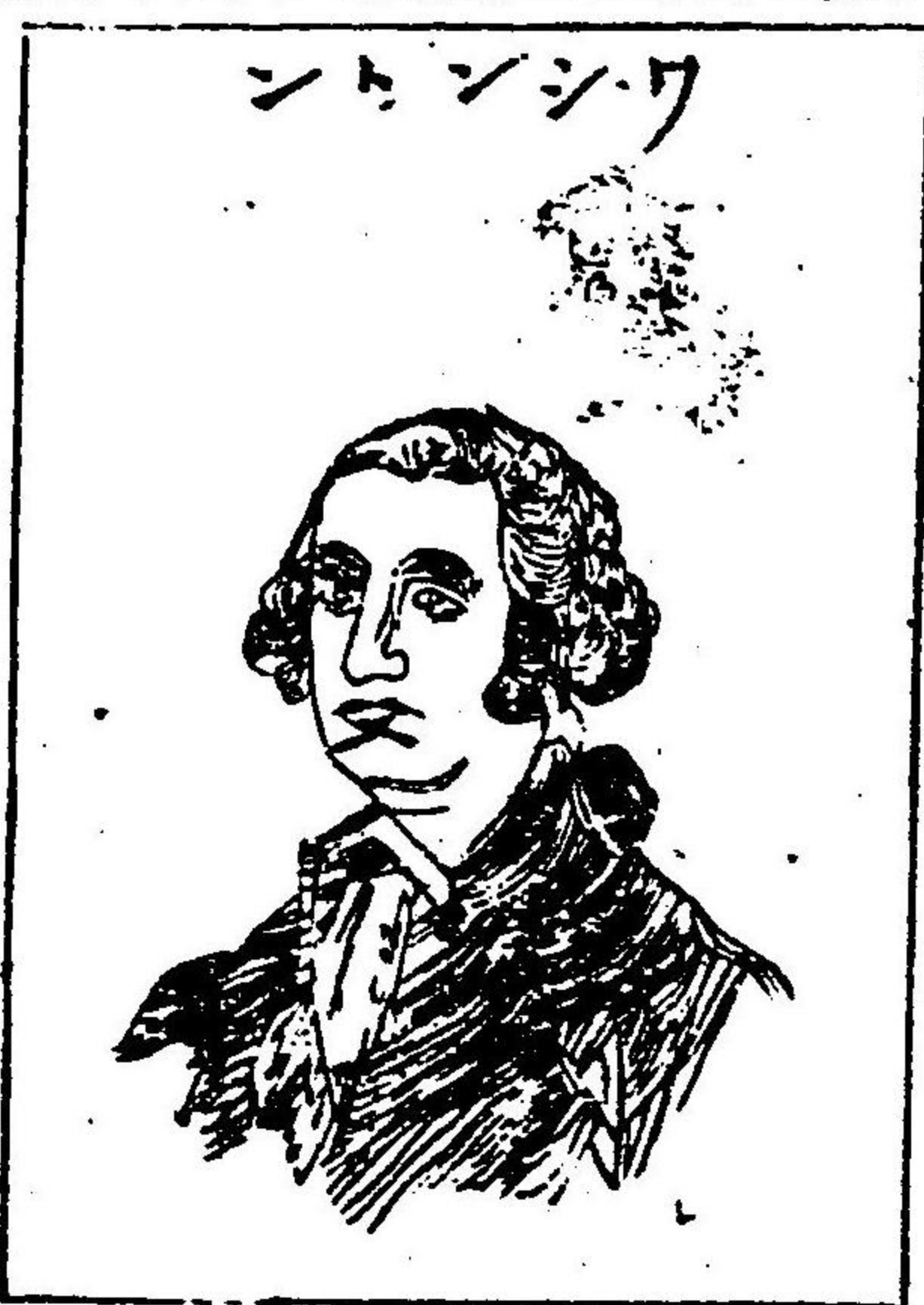
譯

處置アリシカバ、千七百七十四年、各州ヨリ代議  
士ヲ選ミ、ヒラデルヒア府ニ會議シ、政令ヲ改草  
セシメ、英國政府ニ願訴ス、因テ、英國ヨリ兵隊  
ヲ送り、更ニ又威カヲ以テ、之ヲ壓伏セシメント  
スルニ及ビ、國內ノ人心、益動搖シ、遂ニ兵ヲ擧ゲ  
テ英國政府ノ兵ニ抗スルニ至レリ、  
千七百七十五年、後桃園天皇レキシントンニ  
於テ初メテ、戦端ヲ開キ、是ヲ獨立戦争ノ始トシ、  
ニ、ヨルク、ピルチニア、マリリアンド、南北カロ  
リナ等ヲ首トシテ、十三州ノ人民、同盟シテ兵ヲ



舉ゲ、ワシントンヲ以テ總督トシ、英國ノ兵ト戰  
 争ス、又ツフルン、フランクリン、アダムス等ノ  
 英傑、檄文ヲ作り、其英國ニ叛キテ、獨立スル所以  
 ノ理ヲ論ジ、之ヲ諸州ニ布告シ、益防禦ノ備ヲ堅  
 クセリ、爾後數年間、英國ヨリ、此動乱ヲ平定セン  
 ト、海陸ノ大軍ヲ送り、攻撃甚ダ急ナリト雖、總  
 督ワシントン、毎ニ寡兵ヲ以テ、大敵ニ當リ、少シ  
 クモ廻繞セズ、屢苦戰シテ、互ニ勝敗アリ、其間フ  
 ランクリンハ、佛國ニ遊説シテ、其援兵ヲ乞ヒ、次  
 之、西班牙、和蘭モ、共ニ英國ニ抵抗ス、是ヨリ、ワシ

ントンノ兵勢、益盛ニシテ、數度ノ戰爭ノ後、千七  
 百八十一年、ヨーロッパニ於テ、佛兵ト共ニ英  
 國ノ大將コルシエリスノ大軍ヲ破レリ、  
 是ニ於テ、英國モ、征討ノ力盡キテ、和議ヲ講シ、千  
 七百八十三年、天明三年終ニ英、米兩國ノ和睦ヲ結ビ、



此國全ク獨立シテ、是ヲ亞  
 米利加合衆國ト稱ス、次デ  
 ヒラデルヒアニ於テ、大會  
 議ヲ爲シ、合衆共和政體  
 ヲ定メ、四年ノ任限ヲ以テ、



大統領ヲ公選シ、政府ノ主宰タラシメ、即チワシ  
ントンヲ以テ、大統領ニ任セリ、然ルニ、積年ノ戰  
乱ニ因テ、國債ノ數夥シク、國內疲弊シテ、之ヲ如  
何トモスベカラズ、然トモ、ワシントン、善ク政法  
ヲ治メ、賦稅ヲ平ニシ、漸クニ治安ニ至ラシム、ワ  
シントン、在職ノ期滿シルト雖モ、公選ニ因テ、再  
任シテ、大統領ノ職ヲ務ム、  
千七百九十七年、ジョン、アダムス、代テ職ヲ継ギシ  
ガ久シカラズシテ、佛國トノ和議破レントシ、復  
ワシントンヲ舉ゲテ、大將ニ任ゼリ、然レモ、戰爭

ニ至ラズシテ止ム、其後、ジョージワシントン、大統領タル  
時、佛國ノ屬地ルイシアナ州ヲ購ヒ、合衆國ニハ  
ル、當時、貿易益盛大ニシテ、英國ト競ヒシガ、千八  
百十二年、マチソン、大統領タル時、終ニ英國ト戰  
争ニ及ベリ、後、英領カナダノ地、内亂起リシ時、英  
國ト、再ビ不和ヲ生ズト雖モ、戰爭ニ至ラズシテ  
止ム、又大統領ホルクノ時、千八百四十六年、ジェームズ  
モンロ南部ノ隣國メキシコト、戰爭起リシガ、大ニ  
之ヲ破リ、カリホルニア等ノ諸州ヲ以テ、合衆國  
ニハル、此國、獨立以來、次第ニ、ワシントン近傍ノ諸州、同盟ニ



加ハリ其版圖頗ル廣大ニシテ、大西洋ヨリ、太平洋ノ海岸ニ達セリ、其後、數代ヲ歴テ、大統領ビールスノ時、千八百五十三年、孝明天皇 嘉永六年ベルリヲ使節トシテ、我日本へ軍艦ヲ送り來リ、始メテ兩國ノ和親ヲ結ベリ、

大統領ブカナンノ時、奴隸ノ論ヨリシテ、國內徒黨分レ、動搖少カラズ、蓋シ、奴隸ノ論トハ、此國往昔ヨリ、土地ヲ開拓スルガ爲メニ、亞非利加洲ヨリ、黑人ヲ買來リ、山野田園ニ勅作セシメ、奴隸トシテ、多年之ヲ販賣スルノ風俗アリ、然ルニ、人類

ヲ販賣スルハ、人道ノ正理ニ悖ルニエニ、此舊習ヲ一洗シ、黑人ト雖、皆不羈自由ヲ得セシメントスルノ論アリシガ、南部ノ諸州ニ於テハ、甚ダ之ヲ便ナリトセズ、此爭論、既ニ數十年前ヨリ起リ、近年益徒黨ヲ結シテ、爭論相競ヒ、殆ド動乱ニ至ラントス、千八百六十年、孝明天皇 萬延元年リンコルン大統領ノ選舉ニ定マルニ及ビ、其奴隸ヲ廢スルノ主論者ナリシヨリ、南部ノ諸州、忽チ沸騰シ、同年ノ冬、南カロリナ州先導シテ、兵ヲ舉ゲ、積デハロリダ、アラバマ、ミシシピ等ノ諸州、之ニ加ハリ、翌





春ニ至リ、北カロリナ、ビルヂニア等、又連合シテ、南部十三州、同盟ヲ爲シ、ジッフルソン、ダビスヲ以テ、大統領トシ、リッチモンドニ、政府ヲ定メ、獨立國タラント欲ス、是ニ於テ、南北全ク分裂シ、マイルストンノ港ニ於テ、南部ヨリ、サムトルノ城堡ヲ攻撃スルヲ以テ、戦端トシ、五年ノ間、海陸共ニ大戦争アリ、千八百六十四年ノ頃ニ於テハ、南部ハ、リリーヲ以テ、大將トシ、総軍ニ

十五萬、屢劇戦シテ、北部ノ都ワシントン、陥ニ過リシコトアリ、又、北部ハ、グラントヲ大將トシテ、総軍一百餘萬次第ニ南部ニ攻入り、翌年四月、終ニリッチモンドヲ陥シ、イレ、次テ大將リリーヲ降伏セシメ、大統領ダビス等ヲ擒ト爲シ、是ニ於テ、戦乱全ク平ギ、人望益リンコルニ歸シ、同年任限満ツルト雖モ、再ビ之ヲ推選ス、然ルニ、演戲場ニ於テ、刺客ノ爲メニ、遂ニ暗殺セラレタリ、

ジョンソン、大統領トナリ、千八百六十七年、北亞米利加ノ西北部ニ在ル魯國ノ屬地ヲ、七百萬弗ヲ



以テ購ヒ得テ、益國疆ヲ増セリ、蓋シ、近年此國ノ  
 形勢、益富強ニシテ、貿易繁盛ヲ極メ、更ニ太平洋  
 ニ蒸氣飛脚船ヲ置テ、我日本、及ビ清國等ト期日  
 ヲ定メテ、相往來シ、且新々ニ綿亘タル鐵道ヲ構  
 造シ、國內ヲ貫キ直チニ太平洋ノ海岸ヨリ太西  
 洋ノ海岸ニ達ス、實ニ東洋貿易ノ全權ヲ掌握ス  
 ト謂ツベシ、又彼南北戰爭ノ時、總軍ノ大將タリ  
 シグラント、千八百六十九年、大統領ニ任ゼシヨ  
 リ、徐給再任シテ、職ニ居レリ、

萬國史畧卷之二了



